分野	基礎（必須）	教育内容	化学的思考の基盤
教科目	化学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	１年前期	担当	横田喜一郎
実務経験　なし	水産学博士として研究職に従事。現在　本校兼任教員。		

概要

基本的な物質の本性について学び、気体、水溶液に関して学習する
化学反応、有機化合物の基本的な事項を学習し、医療現場で様々な
歯科材料などの物質を扱う基礎知識を学習する

到達目標

① 物質の構造、性質について理解する
② 気体のルール、種類、医療、生活への応用を理解する
③ 水溶液を説明でき、濃度計算が出来る
④ コロイド溶液について説明できる
⑤ 酸とアルカリの性質を説明できる
⑥ 酸化、還元について説明できる
⑦ 化学反応を概説できる
⑧ 有機化合物の特徴を説明できる
⑨ アミノ酸とタンパク質の基本的な構造、機能及び代謝を説明できる
⑩ 糖質の基本的な構造、機能及び代謝を説明できる
⑪ 脂質の基本的な構造、機能及び代謝を説明できる
⑫ 核酸の構造と機能を説明できる

授業内容

【1年前期】

１） 物質の分類と構造
２） 原子の電子配置、元素の周期律
３） 物質量、化学結合
４） 気体
５） 水溶液の濃さの表し方、希釈水溶液
６） コロイド溶液、酸とアルカリ溶液
７） 酸化と還元、金属のイオン化傾向
８） 化学反応、化学平衡
９） 有機化合物の成り立ち、構造
１０） 有機化合物の反応
１１） 代表的な化合物と性質、高分子化合物
１２） 水の構造と性質、人の主要元素
１３） 糖質、アミノ酸とタンパク質
１４） 脂質、核酸と核酸関連物質
１５） 総括

医歯薬出版　歯科衛生士教本　化学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	基礎(必須)	教育内容	化学的思考の基盤
教科目	生物学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位(15時間)
開講時期	1年後期	担当	横田喜一郎
実務経験　なし	水産学博士として研究職に従事。現在　本校兼任教員。		

概要

人間の体の成り立ち、仕組み働きなどを理解する基本とて必要な生物学の知識を学習することにより生命の成り立ちと活動、生命の連続、環境の変化への対応、などを学習する

到達目標

① 生命が持つ特徴、物質の構成を説明する
② 地球上の生命が誕生する過程、物質の起源について説明する
③ 細胞が複雑になる過程、生命進化の道筋を説明する
④ 細胞を作る主要な元素、水の特徴、役割を説明する
⑤ タンパク質、核酸、糖質、脂質などの役割を説明する
⑥ 細胞の研究方法、細胞膜、細胞小器官の構造と役割について説明する
⑦ 原核細胞と真核細胞の特徴を説明する
⑧ 酵素の特徴と役割、ATPの特徴と役割を説明する
⑨ 細胞呼吸の種類とそれぞれの過程を説明する
⑩ 細胞の運動、分泌活動、情報伝達の仕組みについて説明する
⑪ 体細胞分裂のしくみ、細胞周期の過程を説明する
⑫ 細胞死の種類と特徴、単細胞説、多細胞生物の特徴を説明する
⑬ 無性生殖と有性生殖の違い、配偶子形成について説明する
⑭ 減数分裂の特徴について説明する
⑮ 遺伝の法則、ヒトの染色体、遺伝子について説明する
⑯ DNAの化学的性質、遺伝暗号、転写・翻訳反応について説明する
⑰ セントラルドグマについて説明する
⑱ 受精と受精卵の特徴、胚形成、三胚葉と組織、器官について説明する
⑲ 刺激の受容と反応について仕組みと働きを説明する
⑳ 内部環境を保つ仕組みについて説明する
㉑ 動物の行動と進化について説明する
㉒ 地球環境の問題点について説明する

授業内容

【1年後期】

１）	生命とは何か	①生物の特徴　②生命をつくる物質
	生命の誕生	①原始地球　②化学進化と有機物の起源　③原子細胞
２）	生命の変遷	①単細胞の生命体　②核と細胞小器官の起源
		③多細胞生物　④生物進化
３）	細胞	①細胞を作る物質　②生命の単位・細胞
４）		③細胞小器官　④細胞の活動
５）	細胞の一生と個体の成り立ち	①細胞の一生　②単細胞生物と多細胞生物
６）		③ヒトの組織　④ヒトの器官
７）	生命の連続	①生殖の方法　②減数分裂
８）	遺伝と遺伝子	①遺伝とのその法則　②生命をつくる仕組み
９）		③遺伝子を働かせる仕組み
１０）	発生	①過程　②仕組み
	刺激	①刺激の受容　②神経系による伝達
１１）		③中枢神経と末梢神経　④反応と効果器
１２）	内部環境	①多細胞生物の細胞　②ホルモンと働き
１３）		③自律神経とホルモンの協調作用　④生体防御
１４）	動物の行動と進化	①動物の行動　②人の進化と未來
１５）	総括	

医歯薬出版　歯科衛生士教本　生物学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	選択必修（必須）	教育内容	選択必修科目
教科目	心理学・倫理学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	１年後期	担当	専任教員
実務経験　なし	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

一般的な心理学の知識や歯科医療現場における心理学の知識，コミュニケーション諭について学ぶ。

到達目標

口腔保健を担う者として，一般的な心理学の知識や歯科医療現場における心理学の知識，患者との信頼関係に基づく医療サービスを提供する能力および円滑な人間関係を保つ能力を修得する。

授業内容

【1年後期】

１・２）はじめに　自分を知る・他者を知る

３・４）1章　見る・聞く・感じるこころ

５・６）2章　学ぶ・覚えるこころ

７・８）3章　やる気の心理

９・10）4章　喜怒哀楽のこころ

11・12）5章　その人らしさの心理

13・14）6章　かしこさの心理

15・16）7章　考えるこころ

17・18）8章　発達するこころ　（１）

19・20）9章　発達するこころ　（２）

21・22）10章　人と関わる心理　11章　人と集うこころ

23・24）12章　健康なこころ

25・26）13章　カウンセリングのこころ

27・28）14章　思いを伝え合うこころ

29・30）まとめ

テキスト

『心理科』(全国歯科衛生士教育協議会　監修)

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	基礎（必須）	教育内容	人間と生活
教科目	社会学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	２年前期	担当	中尾　啓治
実務経験　なし	別府溝部学園客員教授。本校兼任教員。		

概要

現代社会の仕組みとその変化について、どのような現法と課題が生じ、
どのような対策がとられているのかを考える

到達目標

①　現代社会の様々な変化とその問題点について、理解することができる
②　社会の変化に対する対応策と課題について、理解することができる
③　社会に積極的にかかわっていく知識と、対応力を身につける

授業内容

【２年前期】

１・２）ガイダンス・講義概要
（社会学とは、社会をどのように見つめるか、現代社会と変化）
３・４）私からあなたへ、あなたから私へ
（わかりあえるということ、理解のズレ、コミュニケーション技法）
５・６）私が私であること、私たちを支える社会の仕組み
（アイデンティティ、自己実現と私たちを支える社会のしくみ）
７・８）スティグマとレッテル
（選別と排除のメカニズム、社会的排除と社会的包摂）
９・10）現実と虚構のはざま、インターネットの世界と私たち
（インターネットの世界と私たち、ネットに関連する諸問題）
11・12）ジェンダー
（ジェンダーとは、ワーク・ライフ・バランス、男女雇用機会均等法）
13・14）私たちをとりまくルール
（規範と制度、コミュニケーションの自己準拠、紛争と法）
15・16）社会と権力・雇用社会
（変わる雇用、労働保険と給付、雇用社会の変化と課題）
17・18）不平等と正義
（日本の理想の家族、社会保障の機能、格差社会の是正）
19・20）共同体、家族
（家族とはなにか、家族をめぐる諸問題、児童虐待の防止）
21・22）市民社会・安心安全を実現するための国家の介入
（国民を意識するとき、消費生活の安心、安全）
23・24）グローバル化、情報化の進展とプライバシー
（グローバル化と福祉国家、情報化の進展と個人情報の保護）
25・26）移民と国家、グローバル化
（変貌する現代の社会、ソーシャル・インクルージョン）
27・28）ポストモダン社会と私たち
（ボルトモダン社会はユートピアか、現代社会の特質と社会福祉）
29・30）総括

有斐閣アルマ　社会学のエッセンス

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	基礎分野（必須）	教育内容	人間と生活
教科目	歯科英語		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	１年前期・２年前期	担当	中尾俊一郎
実務経験　なし	高等学校英語教諭として従事後、本校兼任教員として英語を担当。		

概要

歯の名称、構造及び歯式、歯科学に関連する基礎医学分野、歯科学の諸分野、
歯科診療に関する必須用語を学ぶ
第一次歯と第二次歯、医科診療に関する必須用語を身につける

到達目標

歯科学に関連する基礎医学及び歯科学に関する英語の用語や名称などを学ぶと共に
その基本的な内用を理解することによって実務や職業人として必要な基礎学的な
知識を身につける

歯科診療に関する必須用語を学ぶと共に、その基本的な内用を理解することによって
実務や職業人として必要な基礎的知識を身につける

授業内容

【1年前期】

１）　歯の名称、構造および歯式
２）　歯科学に関連する基礎医学分野　解剖学
３）　歯科学に関連する基礎医学　病理学
４）　歯科学に関連する基礎医学　微生物学
５）　歯科学に関連する基礎医学　生理学
６）　歯科学に関連する基礎医学　薬理学
７）　歯科学の諸分野　歯科保存学・歯科補綴学
８）　歯科学の諸分野　口腔外科学
９）　歯科学の諸分野　歯周病学
１０）　歯科学の諸分野　口腔衛生
１１）　歯科学の諸分野　小児歯科学
１２）　歯科学の諸分野　歯科矯正学
１３）　歯科診療に関する必須用語　初心・既往歴・現症
１４）　現症　全身状態・局所所見・頸および項・歯牙の状態・沈着物・軟組織及びその他
１５）　総括

【２年前期】

１） 第一次歯

２） 第二次歯

３） 歯科診療に関する必須用語（現症）１

４） 歯科診療に関する必須用語　２

５） 現症　軟組織及びその他　１

６） 現症　軟組織及びその他　２

７） 現症　疼痛・根管治療　１

８） 現症　疼痛・根管治療　２

９） 現症　歯周病理学　１

１０） 現症　歯周病理学　２

１１） 現症　歯科補綴学　１

１２） 現症　歯科補綴学　２

１３） 現症　口腔外科学　１

１４） 現症　口腔外科学　２

１５） 総括

歯科英語マニュアル　プリント

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	選択必修（必須）	教育内容	選択必修科目
教科目	情報処理		
授業形式	講義・演習	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	１年後期	担当	實本真理子
実務経験　なし	現別府溝部学園短期大学講師。本校兼任教員。		

概要

パソコンの代表的なソフトウェアである（Microsoft Office Word）を通じて、日本語の入力および文書処理能力を身につけるとともに、情報リテラシーを学び、コンピュータ活用能力の向上を図ることを目的とする。また、日本語ワープロ検定の演習問題を解き、日本語ワープロ検定３級以上のスキル習得をめざす。

到達目標

①情報実務に関する基本的な用語を説明できる。
②情報実務で必要な情報機器の基本的な操作ができる。
③情報実務で必要なMicrosoft Office Wordを活用し文書を作成できる。

授業内容

【1年後期】

１・２）　情報モラルとWindowsの基本操作①パソコンの概要
３・４）　Windows基本操作②画面構成・ファイルやフォルダ操作
５・６）　入力基礎（タッチタイピング）
７・８）　Wordの基本操作①Wordの基本画面・書式設定
９・10）　Wordの基本操作②Wordの書式設定
11・12）　Wordを利用し入力の応用
13・14）　Wordの図形処理①表や罫線
15・16）　Wordの図形処理②表の書式設定
17・18）　表を含む文書の作成
19・20）　Wordの図形処理③図形
21・22）　Wordの図形処理④図
23・24）　図形を含む文書の作成
25・26）　ビジネス文書の概要
27・28）　ビジネス文書の作成
29・30）　これまでの知識と技能を活用した文書の作成

テキスト

必要に応じ資料を配布する

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	人間（歯・口腔を除く）の構造と機能
教科目	解剖学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	１年前期	担当	伊東　励・専任教員　実務経験者

実務経験	あり	伊東　励：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員 歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員

概要

人体の成り立ちを理解するために体の構造に関する基本的知識を習得する

到達目標

① 身体の部位を解剖学的な名称で表現できる
② 身体の方向用語を正確に用いることができる
③ 骨の機能と構造について説明できる
④ 骨の発生、上肢骨、下肢骨の種類と形態について説明できる
⑤ 食物が消化・吸収される経路を理解できる
⑥ 各部位における基本構造を説明できる
⑦ 体循環と肺循環について説明できる
⑧ 血液を構成する成分とその機能を説明できる
⑨ 心臓の基本構造を仕組みを説明できる
⑩ 血圧を調節する仕組みを説明できる
⑪ リンパ系の構造と機能を説明できる
⑫ 神経系を分類し、各神経系の解剖学的特徴を説明できる
⑬ 興奮と電動の仕組みを説明できる
⑭ 中枢神経、末梢神経の構造と特徴を説明できる
⑮ 神経系の主な伝導路を説明できる

授業内容

【1年前期】

１・２） 人体の構造と機能を学ぶにあたって
１．骨格系　①概説
３・４）　②発生　③頭蓋骨　④体幹骨　⑤上肢骨　⑥下肢骨
５・６） ２．筋と運動①概説　②各部位の筋系
７・８）　③運動　④筋電図
９・10） ３．消化・吸収①意義　②構造　③口腔での消化　④胃の機能
11・12）　⑤小腸の機能　⑥大腸の機能
13・14） ４．循環　①脈管系の概要　②血管の構造　③血管の機能
15・16）　④血液
17・18）　⑤心臓
19・20）　⑥動脈系　⑦静脈系
21・22）　⑧胎児の循環系　⑨リンパ系
23・24） ５．神経系　①概要　②構成　③中枢神経系　④脳関髄膜　⑤脳の血管
25・26）　⑥末梢神経系１
27・28）　⑥末梢神経系２　⑦神経系の主な伝導路
29・30） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能１　解剖学・組織発生学・生理学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	人間（歯・口腔を除く）の構造と機能
教科目	組織発生学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	１年前期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

人体の成り立ちを理解するために、組織・発生に関する基本的知識を習得する

到達目標

① 細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能を説明できる
② 細胞の基本的生理機能を概説できる
③ 細胞死の種類と機序を概説できる
④ 組織の定義を説明し、分類できる
⑤ 上皮組織の特徴を説明し、形態的と機能的に分類できる
⑥ 外分泌腺と内分泌腺の違いを説明できる
⑦ 皮膚と粘膜の構造・機能の違いを説明できる
⑧ 支持組織の特徴を説明し、分類できる
⑨ 結合組織の所在と構成を説明できる
⑩ 筋組織の構造と機能を説明できる
⑪ 神経組織の構造と機能を説明できる
⑫ 遺伝子と遺伝情報を概説できる
⑬ 受精と着床の時期と場所を説明できる
⑭ 胚葉の形成を概説できる
⑮ 胎児の成長と発育を概説できる

授業内容

【1年前期】

１・２）	細胞と組織	①細胞
３・４）		②組織１
５・６）		②組織２
７・８）	発生	①染色体と減数分裂
９・10）		②精子と卵子の発生　③受精と着床
11・12）		③廃用の形成
13・14）		④胎児の成長と発育
15）	総括	

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能１　解剖学・組織発生学・生理学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	人間（歯・口腔を除く）の構造と機能
教科目	生理学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	１年前期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

人体の成り立ちを理解するために、体の機能に関する基本的知識を習得する

到達目標

① 呼吸の意義を説明できる
② 呼吸器、胸郭の構造と機能を関連付けることができる
③ ガス交換の仕組みを説明できる
④ 呼吸運動に影響を与える因子、制御のしくみを説明できる
⑤ さまざまな刺激により引き起こされる感覚のメカニズムを概説できる
⑥ 活動電位について説明できる
⑦ 受容器の構造、各感覚装置を概説できる
⑧ 特殊感覚器の構造・機能を説明できる
⑨ 排泄の意義を説明できる
⑩ 正常な尿の一般的性状、腎臓の構造と循環系との関係を説明できる
⑪ 尿背の生成の仕組み、排尿の仕組みを概説できる
⑫ 体温を一定に保つことの意義を説明できる
⑬ 体熱産生、放散を説明できる
⑭ 体温調節、体温調節中枢、発熱のメカニズムを概説できる
⑮ 内分泌線の種類とホルモンの働きを説明できる
⑯ 生殖器の構造、性周期にかかわるホルモンの名称と作用を説明できる
⑰ 性周期と体温変化について説明できる

授業内容

【1年前期】

１・２） 呼吸　①呼吸　②呼吸器の構成　③胸郭の構造と換気の仕組み
④肺気量と換気量　⑤ガス交換　⑥血液中の運搬　⑦調節
３・４） 感覚　①基本的性質　②体性・内臓感覚
③外皮　④特殊感覚器の構造と機能
５・６） 排泄　①排泄とは　②排便　③皮膚からの排泄　④排尿
７・８） 体温　①体熱の産生　②体熱の放散　③体温の調節　④体温の変動
９・10） 内分泌　①内分泌器官とホルモン　②器官の構造と機能
③その他のホルモン　④歯とホルモン
11・12） 生殖　①生殖器
13・14）　②性周期　③受精と妊娠　④分娩と乳汁分泌　⑤更年期
15） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能１　解剖学・組織発生学・生理学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	人間（歯・口腔を除く）の構造と機能
教科目	口腔解剖学・歯牙解剖学		
授業形式	講義・実習	単位(時間)	3単位（45時間）
開講時期	１年前期・２年前期	担当	伊東　励・相良明宏　実務経験者専任教員

実務経験	あり	伊東　励：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員

概要

・顔面、口腔及びおの周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造に関する基本的知識を習得する

・口腔及びその周囲組織の成り立ちを理解するために、歯牙の構造に関する基礎的知識を習得する

・歯科衛生士として歯の形態を立体的に学ぶことにより、適切な処置を行う際に必須の知識を習得する

到達目標

① 口腔の範囲と各部位の名称を説明できる
② 口腔前庭と固有口腔を説明し存在する構造物の名称をあげることができる
③ 舌の構造と支配神経を概説できる
④ 口蓋の構造を説明できる
⑤ 頭蓋を構成する骨の名称を証明できる
⑥ 鼻腔と副鼻腔を説明できる
⑦ 大泉門と小泉門を説明できる
⑧ 翼口蓋窩を説明できる
⑨ 上顎骨と下顎骨の構造を概説できる
⑩ 咀嚼筋の名称、起始、停止、作用、支配神経を説明できる
⑪ 顎観閲の構造と機能を概説できる
⑫ 頭頚部に分布する動脈と静脈の特徴とその違いを説明できる
⑬ 顎動脈を概説できる
⑭ 口腔付近にあるリンパ節を説明できる
⑮ 脳神経の名称、性質、頭蓋から出る骨の穴の名称を説明できる
⑯ 三叉神経を説明できる
⑰ 顔面神経を概説できる
⑱ 嚥下に関与する脳神経を概説できる
⑲ 頭部に分布する自律神経を概説できる
⑳ 歯の表示法や記号について説明できる
㉑ 歯種を鑑別できる
㉒ 歯の萌出順について説明できる
㉓ 歯列を咬合について説明できる
㉔ 歯の形態を歯種別に説明できる
㉕ 歯の形態異常について説明できる

授業内容

【1年前期】

１） 口腔付近の解剖学　①口腔とは
２）　②口腔を構成する骨
３）　③頭頚部の筋と作用
４）　④顎関節

５） 口腔付近に分布する脈管系 － 動脈系１
６） 動脈系２
７） － 静脈系
８） － リンパ系
９） 神経 － 中枢神経１
１０） 中枢神経２
１１） 神経 － 脳神経-1
１２） 脳神経-2
１３） 脳神経-3
１４） 神経 － 脊髄神経
１５） 神経 － 自律神経-1
１６） 神経 － 自律神経-2
１７） 神経 － 自律神経-3
１８） 総括
１９） １．歯の機能 ２．歯の交換 ３．歯の植立 ４．歯の組織
２０） ５．歯の形態 ６．歯の種類と数 ７．歯の表示方法 ８．歯式
２１） ９．歯の位置による名称 10．歯の用語
２２） 11．根管の形態 12．左右の識別
２３） 永久歯 １．特徴
２４） ２．形態学的特徴１
２５） ２．形態学的特徴２
２６） 乳歯 １．特徴
２７） ２．形態学的特徴
２８） 特色のある歯の形態1
２９） 特色のある歯の形態2
３０） 歯列と咬合

【２年前期】

３１） スケッチ 前歯
３２） 前歯
３３） 小臼歯
３４） 小臼歯
３５） 大臼歯
３６） 大臼歯
３７） 歯型彫刻 前歯
３８） 前歯
３９） 前歯
４０） 前歯
４１） 大臼歯
４２） 大臼歯
４３） 大臼歯
４４） 大臼歯
４５） 総括

医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上 合格）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の構造と機能
教科目	口腔組織発生学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	１年前期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。

到達目標

① 歯と歯周組織の発生を概説できる。
② 歯の硬組織の形成の違いを説明できる。
③ 歯の萌出過程とその機序を説明できる。
④ 歯の交換を説明できる。
⑤ 歯周組織の組織学的構造と機能を説明できる。
⑥ 歯を構成する硬組織の物理化学的性状、構造物について説明できる。
⑦ 歯髄の構成要素、機能について説明できる。
⑧ 歯周組織について説明できる。
⑨ 口腔粘膜の分類と組織学的相違について説明できる。
⑩ 加齢変化について説明できる。

授業内容

【1年前期】

歯と歯周組織の発生
１） １．先行歯の発生
２） ２．代生歯および加生歯の発生
３） ３．歯の萌出
４） ４．歯の脱落と交換
５） ５．歯の萌出の臨床的考察
歯および歯周組織の構造と機能
６） エナメル質
７） 象牙質･歯髄複合体1
８） 象牙質･歯髄複合体2
９） セメント質
１０） 歯根膜
１１） 歯槽骨
１２） 歯肉
１３） 歯周組織
１４） 口腔粘膜
１５） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の構造と機能
教科目	口腔生理学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	１年後期	担当	青柳龍一・専任教員

実務経験	あり	歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員。 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員

概要

顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の機能に関する基本的知識を習得する

到達目標

① 感覚のメカニズム、特徴を概説できる
② 味覚の生物学的役割を概説でき、受容の仕組みについて概説できる
③ 味覚検査法と味覚障害について説明できる
④ 嗅覚の特性と役割、仕組み、味覚障害を説明できる
⑤ 下顎の位置、運動、反射について説明できる
⑥ 咀嚼の定義、意義を説明できる
⑦ 原子反射について説明できる
⑧ 嚥下・嘔吐の意義と機序を説明できる
⑨ 発声の仕組みを説明できる
⑩ 構音障害の種類を説明できる
⑪ 歯・口腔の病態が発音に及ぼす影響について説明できる
⑫ 義歯が発音に及ぼす影響について説明できる
⑬ 話し言葉のわかりやすさを評価する方法について説明できる
⑭ 唾液腺の種類、分泌機構を説明できる
⑮ 性状と成分および生理作用を説明できる
⑯ 唾液と疾患との関連を説明できる

授業内容

【1年後期】

１・２） 歯と口腔の感覚　①歯の感覚　②口腔の感覚
３・４） 味覚と嗅覚　①味覚　②嗅覚
５・６） 咬合と咀嚼・吸啜　①下顎位　②下顎の運動　③顎反射
④摂食行動　⑤咀嚼能力　⑥吸啜
７・８） 嚥下と嘔吐　①嚥下と嘔吐に関わる構造　②嚥下　③嘔吐
９・10） 発声　①発声機能の概要　②声の生成　③言語音の形成
11・12） ④歯・口腔の病態と発音
13・14） 唾液　①唾液腺　②唾液の分泌機構
③唾液の性状・成分と機能　④唾液と疾患
15） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	基礎（必須）	教育内容	疾病の成り立ち及び回復機能の促進
教科目	病理学・口腔病理学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	１年前期	担当	矢田　直美　実務経験者
実務経験　あり	歯科医師として九州歯科大学に勤務。本校兼任教員		

概要

・疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために疾病の概念、
病因と病態に関する基本的知識を習得する
・口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために
疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を習得する

到達目標

病理学

① 細胞組織の障害を概説できる
② 増殖と修復について病変を概説できる
③ 肉芽組織とその構成成分を説明できる
④ 肉芽組織が関与する病変を列挙できる
⑤ 異物の処理を説明できる
⑥ 創傷の治癒過程を説明できる
⑦ 循環障害について、各状態を概説出来る
⑧ 出血の原因、種類、転帰を概説できる
⑨ 血栓、塞栓の形成期所、転帰を概説できる
⑩ 水腫の原因、症状、転帰を説明できる
⑪ 一次性ショックと二次性ショックの違いを説明できる
⑫ 炎症の定義を説明できる
⑬ 炎症に関する細胞の種類と機能を説明できる
⑭ 炎症を分類できる
⑮ 滲出性炎とその経時的変化を概説できる
⑯ 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の違いを説明できる
⑰ 肉芽性炎の定義を述べ、代表的な肉下種性炎を列挙できる
⑱ 免疫異常、移植免疫を概説できる
⑲ 腫瘍の定義、病因、進展を概説できる
⑳ 腫瘍の局所での発育、浸潤、転移を概説できる
㉑ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを概説できる
㉒ 腫瘍を分類できる
㉓ 前癌病変を概説できる

口腔病理学

① 歯の損傷、発育障害の種類と病態を外悦出来る
② デンタルプラーク、歯石の形成とその為害性を説明できる
③ う蝕の病因と病態を説明できる
④ う蝕を組織学的に分類し、その特徴を説明できる
⑤ 酸蝕症の病因や病態を説明できる
⑥ 歯頚部知覚過敏法の病因や病態を説明できる
⑦ 歯髄疾患の病因と病態を説明できる

⑧　歯髄炎を分類し、その特徴を説明できる
⑨　根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる
⑩　根尖性歯周疾患を分類し、その特徴を説明できる
⑪　歯周疾患の病因と病態を説明できる
⑫　抜歯創の治癒過程を説明できる
⑬　口腔粘膜疾患の種類と特徴を概説できる
⑭　口腔領域の膿瘍、腫瘍、唾液疾患を概説できる

授業内容

【1年前期】

１）病理学を学ぶための基礎的事項
２）病理学序論と病因論
３）歯の発育異常
４）歯の損傷と着色・付着物
５）遺伝性疾患と奇形
６）口腔領域の奇形
７）う蝕１
８）う蝕２
９）振り返り
１０）炎症と免疫応答異常1
１１）炎症と免疫応答異常2
１２）象牙質・歯髄複合体の病態
１３）代謝障害と退行性病変1
１４）代謝障害と退行性病変2
１５）歯周組織の病態1
１６）歯周組織の病態2
１７）増殖と修復
１８）口腔粘膜の病変1
１９）口腔粘膜の病変2
２０）腫瘍1
２１）腫瘍2
２２）口腔領域の嚢胞と腫瘍
２３）口腔癌
２４）循環障害1
２５）循環障害2
２６）唾液腺の病変
２７）顎骨の病変
２８）口腔組織の加齢変化
２９）振り返り
３０）総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　疾病の成り立ち及び回復過程の促進１　病理学・口腔病理学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

歯科衛生科　シラバス

分野	基礎（必須）	教育内容	疾病の成り立ち及び回復機能の促進
教科目	薬理学・歯科薬理学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間）
開講時期	１年後期	担当	山本　恒雄　実務経験者
実務経験　あり	歯科医師として歯科医療時従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院指導者		

概要

薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する

到達目標

薬理学

① 薬物療法を説明できる
② 薬理作用の基本と分類を説明できる
③ 薬物の作用機序を説明できる
④ 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる
⑤ 薬物動態を説明できる
⑥ 薬理作用を規定する要因を説明できる
⑦ 薬物の連用の影響を説明できる
⑧ 妊産婦・小児・高齢者への薬物投与の特徴を説明できる
⑨ 医薬品の分類を説明できる
⑩ 毒薬、劇薬および麻薬などの表示と保管を説明できる
⑪ 医薬品、医療機器等の品質、有効性および安全性の確保に関する法律を説明できる
⑫ 日本薬局方を説明できる
⑬ 薬物の取扱いを説明できる
⑭ 主な中枢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる
⑮ 主な末梢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる
⑯ 循環・呼吸系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる
⑰ 血液凝固の過程、主な止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる
⑱ 炎症のメカニズムを説明できる
⑲ 主な抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消炎酵素薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる
⑳ 感染症を概説でき、主な抗感染症液と消毒薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる

歯科薬理学

① う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる
② 歯・歯髄疾患に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる
③ 歯周疾患に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる
④ 洗口液を説明できる
⑤ 服薬に関する一般的事項を説明できる
⑥ 対象者別の服薬指導を説明できる

授業内容

【1年後期】

１） 薬物の作用、薬物動態、薬物の適用方法
２） 薬物の作用に影響を与える因子
３） 薬物の副作用・有害作用
４） 医薬品を適用する際の注意、薬物の取り扱い、薬物と法律
５） ビタミン・ホルモンに作用する薬物

６）　中枢神経系に作用する薬物
７）　末梢神経系に作用する薬物
８）　循環器系、腎臓に作用する薬物、消化器系に作用する薬物
９）　血液に作用する薬物、免疫と薬
１０）　悪性腫瘍と薬、代謝性疾患治療薬
１１）　炎症と薬、痛みと薬、局所麻酔薬
１２）　抗感染症薬、消毒に作用する薬
１３）　う蝕予防薬
１４）　歯内療法薬　①歯髄の保存に用いる薬剤
１５）　②根管治療に用いる薬物　③象牙質知覚過敏症に用いる薬物
１６）　歯周疾患治療薬　①薬物療法　②急性炎症に用いる薬物
１７）　③歯周治療に用いる薬物
１８）　④洗口薬　⑤口臭治療に用いる薬物　⑥その他
１９）　顎・口腔粘膜、漢方医学と薬物
２０）　総括

使用教材

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　疾病の成り立ち及び回復過程の促進３　薬理学第二版

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	疾病の成り立ち及び回復過程の促進
教科目	栄養・生化学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	１年後期	担当	横田　喜一郎・専任教員　実務経験者

実務経験	あり	横田喜一郎：水産学博士として研究職に従事。現在　本校兼任教員。 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員

概要

生体構成成分や栄養素を化学物質としてとらえ、体内での分解過程、エネルギー生成過程、代謝という化学反応でとらえることで本質を理解する

人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活を理解するために、栄養と食生活に関する基本的知識を習得する

到達目標

① 生命の基本である細胞の構造や細胞小器官の働きを理解する

② 生体の反応に必要な水の働き、生体構成成分と栄養素についてを理解する

③ 消化管で起こる栄養素の消化および吸収について理解する

④ 酵素の運搬と二酸化炭素の排出、細胞内でおこる代謝について理解する

⑤ エネルギー代謝の全体像を理解する

⑥ 主要なエネルギー基質である糖質・脂質の代謝を理解する

⑦ タンパク質が消化され、アミノ酸と吸収されることを理解する

⑧ アミノ酸の代謝分解酵素を理解し、アミノ酸を材料としてタンパク質が合成される過程を理解する

⑨ 体内の内部環境が安定に維持される恒常性を、血液pHと血糖値の調節を例として理解する

⑩ 恒常性を保つ仕組みとして、ホルモン系と自律神経系があることを理解する

⑪ 健康の維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知り、現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を学ぶ

⑫ 栄養素の消化・吸収の基本を知り、栄養素の相互作用、相互の影響について健康維持との関連を知る

⑬ 食事摂取基準とは何かを知り、個人のエネルギー必要量の求め方、摂取量の評価方法を知る

⑭ 脂肪エネルギー比率とは何か、なぜ重要視されるのかを知る

⑮ 付加運動による消費エネルギーの増加が求めれられる理由を知る

⑯ 食品から摂取している糖質、タンパク質、脂質について、生体での役割を理解する

⑰ ビタミンの種類および個々の働きについて理解する

⑱ ミネラルの種類および個々の働きについて理解する

⑲　食生活と健康との関連についてマクロな視点で把握し、健康の維持・増進を進めるための栄養指導の必要性について理解する

⑳　健康づくりにおける食生活改善の取り組みについて、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する

㉑　成長期、成人期、高齢期に至るライフステージ別の食生活の特徴を把握する

㉒　食品の３つの機能性について理解を深める

㉓　健康づくりのための食事計画の進め方について学習する

㉔　食品の特性をおいしさ要因、物性・テクスチャ―などから理解する

授業内容

【1年後期】

１）　生体の構成要素　生体における化学反応

２）　糖質と脂質の代謝・タンパク質とアミノ酸の代謝

３）　生体における恒常性の維持

４）　歯と歯周組織の生化学・硬組織の生化学

５）　唾液の生化学・プラークの生化学

６）　栄養の基礎知識　①食生活と栄養　②栄養素の消化・吸収

７）　食事摂取基準　①エネルギー必要量　②基礎代謝量　③日本人の食事摂取基準

８）　栄養素の働き　①糖質の栄養的意味　②タンパク質の栄養的意味

９）　③脂質の栄養的意味　④ビタミンの栄養的意味

１０）　⑤ミネラルの栄養的意味　⑥水の栄養的意味

１１）　⑦食物繊維の栄養的意味

１２）　食生活と健康　①国民の健康と栄養の現状　②望ましい食生活

１３）　③ライフステージ別の栄養と調理

１４）　食べ物と健康　①食品の成分と分類　②食べ物の物性

１５）　総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能２　栄養と代謝

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	基礎（必須）	教育内容	疾病の成り立ち及び回復機能の促進
教科目	微生物学・口腔微生物学		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	１年後期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

・微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と声帯の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する

・口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状病原性と感染によって生じる病態と声帯の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する

到達目標

微生物学

① 感染と発症を説明できる

② 微生物の感染機構と病原性を概説できる

③ 宿主の抵抗性を概説できる

④ 感染の種類と経路をあげ、概説できる

⑤ 微生物の形態学的特徴と基本的性状を概説できる

⑥ 滅菌、消毒の意義と原理を説明できる

⑦ 院内感染の原因と予防法を説明できる

⑧ 化学療法の目的と原理を説明できる

⑨ 微生物の培養と観察法を概説できる

⑩ 自然免疫と獲得免疫を説明できる

⑪ 液性免疫と予防性免疫を説明できる

⑫ 免疫単糖細胞の種類と機能を説明できる

⑬ 抗原、抗体およびサイトカインを説明できる

⑭ 免疫反応を利用した検査法を概説できる

⑮ ワクチンを説明できる

⑯ アレルギーを概説できる

口腔微生物学

① 微生物と口腔環境の関わりを説明できる

② 口腔錠剤微生物を概説できる

③ デンタルプラークの形成とその微生物叢を概説できる

④ バイオフィルム感染症を概説できる

⑤ う蝕病因菌を概説できる

⑥ 歯周病原因菌を概説できる

⑦ 微生物が原因で口腔に症状を現す疾患を概説できる

授業内容

【1年後期】

１）	疾病と微生物	①疾病と微生物、免疫学1	
２）		①疾病と微生物、免疫学2	
３）		②感染と感染症1	
４）		②感染と感染症2	
５）	微生物の病原性	①微生物の位置づけ	②細菌1
６）		①微生物の位置づけ	②細菌2
７）		③マイコプラズマ属	④スピロヘータ1
８）		③マイコプラズマ属	④スピロヘータ2
９）		⑤リケッチア	⑥クラミジア1
１０）		⑤リケッチア	⑥クラミジア2
１１）		⑦ウイルス	⑧その他の微生物1
１２）		⑦ウイルス	⑧その他の微生物2
１３）	宿主防御機構と免疫	①宿主防御機構1	
１４）	宿主防御機構と免疫	①宿主防御機構2	
１５）		②免疫機構1	
１６）		②免疫機構2	
１７）		③液性免疫	
１８）		④細胞性免疫	
１９）		⑤アレルギー	
２０）	口腔微生物学	①口腔細菌叢	②デンタルプラーク1
２１）		①口腔細菌叢	②デンタルプラーク2
２２）	口腔感染症	①う蝕	②歯内感染症
２３）		③歯周病	④その他の口腔感染症
２４）	化学療法	①化学療法と化学療法薬	
２５）		②主な化学療法薬の種類と特徴	
２６）		③抗菌スペクトル	④生体内動態
２７）		⑤薬剤感受性試験	⑥薬剤耐性　⑦有害作用
２８）	院内感染対策と滅菌・消毒、細菌培養・顕微鏡観察1		
２９）	院内感染対策と滅菌・消毒、細菌培養・顕微鏡観察2		
３０）	総括		

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　疾病の成り立ち及び回復過程の促進２　微生物学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
教科目	口腔衛生・衛生統計		
授業形式	講義	単位(時間)	3単位（45時間）
開講時期	１年前期・後期	担当	藤田　浩・専任教員　実務経験者・横田喜一郎

実務経験	あり	藤田　浩：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員

概要

歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する
個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保険情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。

到達目標

① 口腔の健康の定義、口腔と全身の健康の関係を説明できる
② 歯・口腔の保持増進手段を概説できる
③ 歯・口腔の異常を説明できる
④ 歯・口腔の機能、作用を説明できる
⑤ 口腔清掃の意義、種類、器材について説明できる
⑥ 不適切な口腔清掃による為害作用とその予防法を列挙できる
⑦ 歯科疾患の疫学的特性を概説できる
⑧ う蝕の発生、予防について説明できる
⑨ フッ化物によるう蝕予防について説明できる
⑩ 歯周病の発生、進行、原因、予防について説明できる
⑪ その他の疾患、異常の予防について説明できる
⑫ 歯科疾患の指標を列挙できる
⑬ 保健情報の分析手順について説明できる
⑭ データの数値の持つ特徴を説明できる
⑮ 代表値、散布度、検定法を選択できる
⑯ 検定の流れを説明でき、各種検定を説明できる
⑰ 図表の種類と特徴を列挙でき、作成できる
⑱ 情報の特性を概説でき、個人情報の扱い、情報モラルを概説できる

授業内容

【1年前期】

１） 総論
２） 歯・口腔の健康と予防
３） 口腔清掃1
４） 口腔清掃2
５） フッ化物によるう蝕予防1
６） フッ化物によるう蝕予防2
７） フッ化物によるう蝕予防3
８） 保健情報と保健統計1
９） 保健情報と保健統計2
１０） 保健情報と保健統計3
１１） 保健情報の分析手順1

１２） 保健情報の分析手順2
１３） 保健情報の分析手順3
１４） 前期総括
１５） 歯科疾患の疫学
【1年後期】
１６） その他の疾患・異常1
１７） その他の疾患・異常2
１８） ライフステージごとの口腔保健管理1
１９） ライフステージごとの口腔保健管理2
２０） ライフステージごとの口腔保健管理3
２１） ライフステージごとの口腔保健管理4
２２） 地域保健・公衆衛生1
２３） 地域保健・公衆衛生2
２４） 母子保健1
２５） 母子保健2
２６） 学校保健1
２７） 学校保健2
２８） 成人保険1
２９） 成人保険2
３０） 産業保健1
３１） 産業保健2
３２） 老人保健1
３３） 老人保健2
３４） 精神保健1
３５） 精神保健2
３６） 国際保健
３７） 歯科疾患の指数1
３８） 歯科疾患の指数2
３９） 歯科疾患の指数3
４０） 歯科疾患の指数4
４１） 保健統計の方法1
４２） 保健統計の方法2
４３） 保健情報の分析1
４４） 保健情報の分析2
４５） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み１　保健生態学
医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み２　保健情報統計学

評価方法
成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
教科目	衛生・公衆衛生		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	１年前期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得する

到達目標

① 健康の定義と国民の権利を説明できる
② 健康づくりの理念、社会環境の理念を説明できる
③ 疫学の定義を説明できる
④ 疾病や異常の発生要因を列挙できる
⑤ 健康・疾病・異常・流行を表す指標を列挙できる
⑥ 疫学研究の方法を説明できる
⑦ 疫学研究における倫理的配慮の必要性を説明できる
⑧ 人口の現状と推移を概説できる
⑨ 人口統計、人口構造を説明できる
⑩ 人口の高齢化、平均寿命の動向を説明できる
⑪ 人間と環境、健康の関係を説明できる
⑫ 地域環境の変化とその対応を説明できる
⑬ 公害問題とその原因物質を列挙できる
⑭ 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる
⑮ 感染症の概念と感染成立の要素を説明できる
⑯ 感染予防・流行防止の考え方と対策を説明できる
⑰ 感染症対策上の問題点を説明できる
⑱ 感染症の分類とその内容、主な感染症とその動向を説明できる
⑲ 食中毒の発生状況、分類と特徴を説明できる
⑳ 食品の安全性確保のための方策を列挙できる
㉑ 健康日本２１（第二次）における食に関するわが国の政策を説明できる

授業内容

【1年前期】

１） 総論、人口1
２） 総論、人口2

３） 環境と健康1
４） 環境と健康2
５） 環境と健康3
６） 疫学1
７） 疫学2
８） 疫学3
９） 疫学4
１０） 感染症1
１１） 感染症2
１２） 感染症3
１３） 食品と健康1
１４） 食品と健康2
１５） 生活習慣と健康1
１６） 生活習慣と健康2
１７） 地域保健1
１８） 地域保健2
１９） 母子保健1
２０） 母子保健2
２１） 学校保健1
２２） 学校保健2
２３） 成人・高齢者保健1
２４） 成人・高齢者保健2
２５） 成人・高齢者保健3
２６） 産業保健1
２７） 産業保健2
２８） 精神保健1
２９） 精神保健2
３０） 総括

医歯薬出版　デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み１　保健生態学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門基礎分野（必須）	教育内容	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
教科目	衛生行政・社会福祉		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	１年前期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

日本の法律・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する

到達目標

① 日本の医療制度を概説できる

② 医療経済の動向を説明でき、医療施設、従事者の現況を説明できる

③ 歯科衛生士、歯科医師および歯科技工士の業務を説明できる

④ 歯科衛生士資格の成り立ちと目的を説明できる

⑤ 歯科衛生士業務とその法的根拠を説明できる

⑥ 歯科衛生士の試験・免許に関する手続きを説明できる

⑦ 歯科衛生士法に規定されている義務と債務を説明できる

⑧ 医療法の成り立ち、遵守事項を説明できる

⑨ 歯科医師の指示で歯科診療の補助を行う医療職種を列挙できる

⑩ 保健志助産師看護師法の概要と診療の補助を概説できる

⑪ 診療放射線技師と言語聴覚士の業務の概略を概説できる

⑫ 医師法と薬剤師法の概略を概説できる

⑬ 薬事衛生法規、保健衛生法規、予防衛生法規を列記し、その概要を説明できる

⑭ 社会保険制度の種類を列挙できる

⑮ 社会保険、医療保険、介護保険制度を説明できる

⑯ 障害者の保健・医療・福祉制度を説明できる

⑰ 歯科衛生士法が関わる社会福祉を説明できる

授業内容

【1年前期】

１） 歯科衛生士と法律　①はじめに

２）　②歯科衛生士法1

３）　③歯科医師法

４）		④歯科技工士法
５）		⑤歯科口腔保健の推進に関する法律1
６）		⑤歯科口腔保健の推進に関する法律2
７）		⑥医療法1
８）		⑥医療法2
９）	医療関係職種	①歯科医療と関わる医療関係者　②保健師助産師看護師法1
１０）		①歯科医療と関わる医療関係者　②保健師助産師看護師法2
１１）		③診療放射線技師法　④言語聴覚士法1
１２）		③診療放射線技師法　④言語聴覚士法2
１３）		⑤医師法　⑥薬剤師法1
１４）		⑤医師法　⑥薬剤師法2
１５）		⑦その他の医療関係職員に係る法律
１６）	その他の関係法規	①薬事衛生法規
１７）		②保健衛生法規
１８）		③予防関係法規
１９）	社会保障	①社会保障
２０）		②社会保険1
２１）		②社会保険2
２２）		③医療保険
２３）		④介護保険1
２４）		④介護保険2
２５）		⑤年金保険
２６）		⑥雇用保険と労働者災害補償保険
２７）		⑦社会福祉
２８）	医療の動向	①医療状況の動向1
２９）		①医療状況の動向2
３０）	総括	

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2　歯科衛生士と法律・制度 第3版

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門（必須）	教育内容	歯科衛生士概論
教科目	歯科衛生士概論		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	１年後期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

歯科衛生業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療委j んとしての
基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的
思考法の基礎を習得する
対象とする人の歯科衛生ニーズにあった支援をするために倫理的に思考し、
問題発見及び開設するための課程を理解する

到達目標

① 歯科衛生学を概説できる
② 歯科衛生業務の構成要素を説明できる
③ 実践にあたってのクリティカルシンキング・批判的に思考する意義を説明できる
④ 歯科衛生過程の構成要素を列挙でき、意味を説明できる
⑤ 対象者を第一に考えた健康づくりを支援する理由を説明できる
⑥ 業務記録の意義を説明できる
⑦ 歯科衛生の実践が倫理的である理由を説明できる
⑧ インフォームドコンセントにおける患者・家族と保健医療者双方の権利と義務を説明できる
⑨ 歯科衛生業務の実践におけるコミュニケーションの必要性を説明できる
⑩ 歯科衛生業務実践のための判断力と習熟した技術が必要である理由を説明できる
⑪ 保険・医療・福祉分野の専門職の業務を概説できる
⑫ 多職種との連携の意義の説明できる
⑬ チーム医療を概説できる
⑭ 医療安全対策の必要性と方策を概説できる
⑮ 論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる
⑯ 歯科衛生過程を概説できる
⑰ 歯科衛生アセスメント、計画、診断、介入を説明できる
⑱ 歯科衛生業務記録の意義を説明できる
⑲ 歯科衛生過程における評価を説明できる

授業内容

【1年後期】

１） 歯科衛生学とは1
２） 歯科衛生学とは2
３） 歯科衛生の歴史
４） 歯科衛生活動のための理論1

５） 歯科衛生活動のための理論2
６） 歯科衛生過程1
７） 歯科衛生過程2
８） 歯科衛生過程3
９） 歯科衛生士法と歯科衛生業務1
１０） 歯科衛生士法と歯科衛生業務2
１１） 歯科衛生士法と歯科衛生業務3
１２） 歯科衛生士と医療倫理
１３） 歯科衛生士の役割と組織、海外における歯科衛生士1
１４） 歯科衛生士の役割と組織、海外における歯科衛生士2
１５） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯科衛生学総論

評価方法
成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門（必須）	教育内容	歯科衛生士概論
教科目	医療倫理		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	２年後期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

医の倫理の原則を学ぶとともに、歯科衛生士に求められる職業人としての心構えや
インフォームド・コンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケ
―ション技術やその基礎となる行動科学について学ぶ

到達目標

① 伝統的な医の倫理の特徴を述べることができる
② 新しい医の倫理が求められるようになった理由を列記できる
③ 医療倫理とは何かについて簡潔に述べることができる
④ 患者中心の医療とは何かについて述べることができる
⑤ 医療従事者の職業倫理に関する規範について概説できる
⑥ 患者の権利、人を対象とする医学研究の倫理について概説できる
⑦ バイオエシックスとは何かについて概説できる
⑧ 命の始まりと終わりに関する倫理的問題について概説できる
⑨ 医療技術の発達がもたらした倫理的問題について概説できる
⑩ インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイスについて説明できる
⑪ セカンドオピニオンについて説明できる
⑫ 倫理的欲求としてのインフォームド・コンセントについて概説できる
⑬ インフォームド・コンセントの倫理的意義について述べることができる
⑭ 研究と医療倫理との関わりについて説明できる
⑮ 人を対象とした研究の倫理的指針について概説できる
⑯ 倫理的な配慮が必要な研究について説明できる
⑰ 研究への協力依頼の方法について説明できる
⑱ 生活行動と保健行動について説明できる
⑲ ＱＯＬとはどういうことが節目できる
⑲ 歯科医療におけるＱＯＬの向上について説明できる
⑳ 歯科衛生士としてのＱＯＬとの関わり方について説明でききる
㉑ 歯科衛生士としての生きがいはどのようなことが考えられるか説明できる

授業内容

【２年後期】

１） なぜ医療倫理を学ぶのか1
２） なぜ医療倫理を学ぶのか2
３） 医療倫理に関する規範とバイオエシックス1
４） 医療倫理に関する規範とバイオエシックス2
５） インフォームド・コンセント1
６） インフォームド・コンセント2
７） 研究と医療倫理1
８） 研究と医療倫理2
９） 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動1
１０） 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動2
１１） その他医療従事者に必要とされること1
１２） その他医療従事者に必要とされること2
１３） 医療倫理に関連する規範と法令1
１４） 医療倫理に関連する規範と法令2
１５） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯科医療倫理

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	臨床概論		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	１年後期	担当	井野　章・佐藤裕向・専任教員　実務経験者

実務経験	あり	井野　章：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。 佐藤裕向：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。

概要

歯科医療を担う一員となるための理解を深める

歯科医学、歯科臨床における歯科衛生士の役割を自覚する

到達目標

① 歯科診療の場を理解する

② 歯科診療所を訪れる人とその理由を理解する

③ 歯科診療所における業務を時間的な流れとして理解する

④ 歯科診療所での日常を理解する

⑤ 各ライフステージに関わる歯科臨床および歯科衛生士の関係を理解する

授業内容

【1年後期】

１）	歯科医療と歯科診療所	①歯科診療とは1
２）	歯科医療と歯科診療所	①歯科診療とは2
３）		②歯科診療所1
４）		②歯科診療所2
５）		③歯科診療所における業務1
６）		③歯科診療所における業務2
７）		③歯科診療所における業務3
８）		③歯科診療所における業務4
９）	歯科診療の流れ	①ライフステージと歯科診療
１０）		②歯科診療で行う事1
１１）		②歯科診療で行う事2
１２）		②歯科診療で行う事3
１３）		②歯科診療で行う事4
１４）		②歯科診療で行う事5
１５）	総括	

医歯薬出版　歯科衛生士のための歯科臨床概論

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	保存修復・歯内療法学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間）
開講時期	２年前期	担当	豊田隆雄・松本英治・専任教員　実務経験者

実務経験	あり	豊田隆雄：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。 松本英治：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。 歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員

概要

・歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する

到達目標

保存修復

① 歯の硬組織疾患の種類と原因、予防法、処置法を説明できる
② う蝕治療の流れ、また前準備の概要を説明できる
③ 窩洞の構成と名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる
④ 修復処置に使用する器材の概要を説明できる
⑤ 修復法の種類と特徴を説明できる
⑥ 歯の偏食の原因と処置法を説明できる
⑦ ＭＩＤの意義を説明できる
⑧ 象牙質知覚過敏症の症状と原因、処置法を説明できる
⑨ 修復処置後の不快事項とメインテナンスを説明できる

歯内療法

① 歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状・検査法を説明できる
② 歯髄の保存療法を説明できる
③ 歯髄の除去療法を説明できる
④ 根尖性歯周組織疾患を説明できる
⑤ 根管治療に用いる器材の使用法を説明できる
⑥ 根管充填法の処置法を説明できる
⑦ 根管知慮に用いる器材の使用法を説明できる
⑧ 根管充填法を説明できる
⑨ 根未完成歯の処置法を説明できる
⑩ 外科的歯内療法の種類・適応症および処置法を説明できる
⑪ 外傷歯の治療法を説明できる
⑫ 歯内療法における偶発事故とその防止策を説明できる

授業内容

【２年前期】

保存修復

１） 歯の保存療法の種類　口腔検査

２） 保存修復の概要
３） 直接法修復1
４） 直接法修復2
５） 間接法修復1
６） 間接法修復2
７） 保存修復における歯科衛生士の役割1
８） 保存修復における歯科衛生士の役割2

歯内療法

９） 歯内療法学の概要
１０） 歯髄保存療法1
１１） 歯髄保存療法2
１２） 歯髄の除去療法1
１３） 歯髄の除去療法2
１４） 根管治療1
１５） 根管治療2
１６） 外科的歯内療法1
１７） 外科的歯内療法2
１８） 歯の外傷、歯内療法における安全対策
１９） 歯内療法における歯科衛生士の役割
２０） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯の硬組織・歯髄疾患　歯内療法・保存修復

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	歯周病学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間）
開講時期	２年前期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する

到達目標

①　歯周病の種類と症状を説明できる
②　歯周治療の流れを説明できる
③　歯周病の検査法と検査結果を説明できる
④　歯周初期治療の術式と適応症を説明できる
⑤　歯周外科治療の種類と適応症を説明できる
⑥　歯周外科手術の解除の概要を説明できる
⑦　口腔機能回復治療の概要を説明できる
⑧　歯周治療後の再評価ができる
⑨　歯周治療後のメインテナンスを説明できる

授業内容

【２年前期】

１）	歯周治療の基礎知識	１．歯周治療とは1
２）		１．歯周治療とは2
３）		２．正常な歯周組織の構造と機能1
４）		２．正常な歯周組織の構造と機能2
５）		３．歯周病の分類と原因1
６）		３．歯周病の分類と原因2
７）		３．歯周病の分類と原因3
８）	歯周治療の実際	１．歯周治療の進め方1
９）		１．歯周治療の進め方2
１０）		２．歯周病の検査1
１１）		２．歯周病の検査2
１２）		３．歯周基本治療
１３）		４．歯周外科治療1
１４）		４．歯周外科治療2
１５）		５．歯周治療としての口腔機能回復1
１６）		５．歯周治療としての口腔機能回復2
１７）	歯周治療における歯科衛生士の業務1	
１８）	歯周治療における歯科衛生士の業務2	
１９）	歯周治療における歯科衛生士の業務3	
２０）	総括	

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯周病学

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	歯科補綴学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間）
開講時期	２年後期	担当	溝部秀邦・専任教員　実務経験者

実務経験	あり	溝部秀邦：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、臨床実習歯科医院院長。 歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員

概要

歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは
全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する

到達目標

① 歯および歯列の形態と位置的関係、顎口腔系の機能、咬合を説明できる
② 補綴装置の種類と適応を説明できる
③ 次第装置とポンティックの選択、特徴および製作法を概説できる
④ 有床義歯の支持装置、把持装置および維持装置を説明できる
⑤ 補綴治療に用いられる器材を説明できる
⑥ 補綴治療の臨床ステップおよび技工操作を概説できる
⑦ 補綴装置製作のための咬合採得に用いる材料と取り扱い法を説明できる
⑧ 咬合採得する下顎位と咬合採得法を概説できる
⑨ 義歯の調整、リライニング、リベースおよび修理を概説できる
⑩ 補綴処置後におけるメインテナンスの重要性を説明できる
⑪ ブリッジの特徴・構成を説明できる
⑫ プロビジョナルレストレーションの概要を説明できる
⑬ インプラントの特徴を説明できる

授業内容

【２年後期】

１）	補綴歯科治療の基礎	１．歯科補綴の概要
２）		２．歯科補綴治療の基礎知識1
３）		２．歯科補綴治療の基礎知識2
４）	補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割	１．検査1
５）		１．検査2
６）		２．クラウン・ブリッジ治療1
７）		２．クラウン・ブリッジ治療2
８）		２．クラウン・ブリッジ治療3
９）		２．クラウン・ブリッジ治療4
１０）		２．クラウン・ブリッジ治療5
１１）		３．有床義歯治療1
１２）		３．有床義歯治療2
１３）		３．有床義歯治療3
１４）		３．有床義歯治療4
１５）		３．有床義歯治療5
１６）		４．インプラント治療1
１７）		４．インプラント治療2
１８）		５．特殊な口腔内装置を用いる治療
１９）		６．補綴治療における器材
２０）	総括	

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常１　歯科補綴

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	歯科矯正学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間）
開講時期	２年前期	担当	兼子宏一・専任教員　実務経験者

実務経験	あり	兼子宏一：歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員、歯科医院院長。 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員。

概要

歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法を理解する

到達目標

① 顔面及び歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる
② 成長発育に伴う性状咬合を説明できる
③ 不正咬合の原因と種類を列挙できる
④ 不正咬合による障害と矯正治療の目的を説明できる
⑤ 強制力と歯の移動時の生体反応を説明できる
⑥ 矯正装置の種類、構造および機能を説明できる
⑦ 矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる
⑧ 矯正治療前、治療中および保定期間における口腔健康管理法を説明できる

授業内容

【２年前期】

１）	矯正歯科治療に関する基礎知識	１．矯正歯科治療の概要
２）		２．成長発育　３．正常咬合と不正咬合
３）		４．矯正歯科診断　５．矯正歯科治療と力
４）		６．矯正装置1
５）		６．矯正装置2
６）		６．矯正装置3
７）	矯正歯科治療の実際	１．上下顎の前後的関係の不調和
８）		２．上下顎の垂直的関係の不調和
９）		３．成人矯正
１０）		４．口腔顎顔面の形成異常と変形1
１１）		４．口腔顎顔面の形成異常と変形2
１２）		５．歯の埋伏と歯数の異常1
１３）		５．歯の埋伏と歯数の異常2
１４）		６．矯正治療時のトラブルへの対応
１５）		７．健康保険が適用される矯正歯科治療
１６）	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	１．業務1
１７）	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	１．業務2
１８）	２．口腔保健管理	３．口腔筋機能療法
１９）		４．器材、資料、文書の管理
２０）	総括	

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常２　歯科矯正

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	口腔外科学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間）
開講時期	２年前期	担当	青柳龍一・専任教員

実務経験	あり	歯科医師として歯科医療に従事。本校兼任教員。 専任教員：歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員。

概要

歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に報じる各種疾患の特徴と症状、
診断法および治療法を理解する
歯科衛生士業務を行うために必要な全身管理、局所麻酔、精神鎮静法および全身麻酔
を理解する

到達目標

① 顎・口腔領域に生じる各種疾患を分類できる
② 先天異常と発育異常の症状と治療法を概説できる
③ 歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折および軟組織損傷の症状と治療法を概説できる
④ 各種口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を概説できる
⑤ 歯槽部、顎骨および周囲組織の塩飽の原因、感染経路と症状および治療法を概説できる
⑥ 顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状及び治療法を概説できる
⑦ 顎・口腔領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と症状および治療法を概説できる
⑧ 顎関節疾患、唾液腺疾患の症状と治療法を概説できる
⑨ 顎・口腔領域の神経疾患の症状を概説できる
⑩ 口腔に上場をきたす血液疾患の特徴を概説できる
⑪ 抜歯・口腔外科小手術の手順を説明できる
⑫ 抜歯の適応と禁忌を概説できる
⑬ 抜歯・口腔外科小手術の術中・術後の局所的偶発症および術後の注意を説明できる
⑭ 顎口腔領域の周術期の口腔衛生管理を説明できる
⑮ 麻酔の目的を説明できる
⑯ バイタルサイン、経皮的動脈血酸素飽和度を説明できる
⑰ 各種局所麻酔法と施術時の注意点を説明できる

⑱　歯科治療中の全員的偶発症とその対応を説明できる

⑲　精神鎮静法、全身麻酔の適応症と種類を説明できる

授業内容

【２年前期】

１）	顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	１．概要　２．先天異常と発育異常1
２）		１．概要　２．先天異常と発育異常2
３）		３．顎・口腔領域の損傷および機能障害
４）		４．口腔粘膜の病変1
５）		４．口腔粘膜の病変2
６）		５．化膿性炎症疾患
７）		６．嚢胞性疾患
８）		７．腫瘍及び腫瘍類似疾患1
９）		７．腫瘍及び腫瘍類似疾患2
１０）		８．唾液腺疾患
１１）		９．口腔領域の神経疾患
１２）		１０．口腔外科診療の実際1
１３）		１０．口腔外科診療の実際2
１４）	歯科治療と歯科麻酔	１．歯科麻酔と患者管理
１５）		２．局所麻酔
１６）		３．精神鎮静法
１７）		４．全身麻酔　５．救急蘇生法
１８）	歯科衛生士のかかわり	業務1
１９）		業務2
２０）	総括	

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	小児歯科学		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間）
開講時期	１年後期	担当	西田　郁子　実務経験者
実務経験　あり	歯科医師として九州歯科大学勤務。現在、本校兼任教員		

概要

歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する

到達目標

① 小児の正常な身体的成長発育とその障害を説明できる
② 成人歯科と小児歯科の違いを説明できる
③ 各年齢における小児の正常な心理的発達とその障害を説明できる
④ 小児の先天性疾患を説明できる
⑤ 歯列および咬合の正常発育とその障害を説明できる
⑥ 乳歯と幼若永久歯の解剖学的特徴を説明できる
⑦ 小児う蝕の特徴、う蝕予防および進行抑制法を説明できる
⑧ 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法ならびに歯内療法を説明できる
⑨ 小児の口腔外科的疾患を説明できる
⑩ 小児の歯の外傷の種類と処置法を説明できる
⑪ 咬合誘導の概念ならびに保劇装置の種類、適応症および留意点を説明できる

授業内容

【１年後期】

１）	小児歯科診療の基礎知識	１．小児歯科学概論
２）		２．心身の発育1
３）		２．心身の発育2
４）		３．心理的特徴1
５）		４．顔面頭蓋の発育
６）		５．歯の発育とその異常
７）		６．歯列・咬合の発育と異常1
８）		６．歯列・咬合の発育と異常2
９）		７．小児の歯科疾患1
１０）		７．小児の歯科疾患2
１１）	小児歯科診療	１．小児期の特徴と歯科的問題点1
１２）		１．小児期の特徴と歯科的問題点2
１３）		２．小児歯科における患者との対応法1
１４）		２．小児歯科における患者との対応法2
１５）		３．小児歯科における診療体系1
１６）		３．小児歯科における診療体系2
１７）		４．障害児の歯科治療1
１８）		４．障害児の歯科治療2
１９）	小児歯科診療における歯科衛生士の役割	
２０）	総括	

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　小児歯科

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

歯科衛生科　シラバス

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	高齢者歯科・障害者歯科		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間）
開講時期	１年後期	担当	塚本　末廣　実務経験者
実務経験　あり	歯科医師として歯科医療従事。本校兼任教員。歯科医院院長。		

概要

歯科衛生業務を行うために必要な障害者児の身体的・心理的特徴と歯科治療ならびに
高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する

到達目標

① 障害の概念が説明できる
② 障害の種類・歯科的特徴および歯科保健医療の留意点を説明できる
③ 障害児者の歯科治療を説明できる
④ 障害児者歯科における医療安全を説明できる
⑤ 障害児者の保護・医療・福祉制度を説明できる
⑥ 障害児者の摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる
⑦ 全身及び口腔の加齢と老化を説明できる
⑧ 人口の超高齢化による社会環境の変化を説明できる
⑨ 高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる
⑩ 高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる
⑪ 高齢者の口腔健康管理を説明できる
⑫ 歯科訪問診療の意義と目的を説明できる
⑬ 高齢者の摂食嚥下障害の原因と症状を説明できる
⑭ 高齢者の摂食嚥下リハビリテーションを説明できる
⑮ 高齢者のための社会保障と医療・保健・福祉を説明できる
⑯ サルコペニアとフレイルを説明できる
⑰ 高齢者の終末期ケアを説明できる
⑱ 高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔健康管理を説明できる

授業内容

【１年後期】

高齢者歯科

１）　１．高齢者を取り巻く社会と環境
２）　２．加齢による身体的・精神的変化と疾患
３）　３．高齢者の状態の把握1
４）　３．高齢者の状態の把握2

５）　４．口腔のケア1
６）　４．口腔のケア2
７）　５．摂食嚥下リハビリテーション　1
８）　５．摂食嚥下リハビリテーション　2
９）　６．高齢者に関わる医療と介護
１０）　７．高齢者歯科における歯科衛生過程
１１）　総括

障害者歯科

１２）　１．障害の概念
１３）　２．歯科医療で特別な支援が必要な疾患
１４）　３．障碍者の歯科医療と行動調整
１５）　４．健康支援と口腔管理
１６）　５．リスク評価と安全管理
１７）　６．摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割
１８）　７．地域における障害者歯科
１９）　８．障害者歯科における歯科衛生過程
２０）　総括

使用教材

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　障害者歯科
医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　高齢者歯科

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：高齢者歯科・障害者歯科各筆記試験を100点満点で実施し、平均を評価点とする
合格６０点以上

分野	専門（必須）	教育内容	臨床歯科医学
教科目	歯科放射線		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（20時間）
開講時期	２年前期	担当	大庭　健　実務経験者
実務経験　あり	歯科医師。九州歯科大学名誉教授。本校兼任教員。		

概要

患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報、歯科疾患の診断および歯科衛生業務の実施に必要な画像検査の意義を理解する

到達目標

① 放射線の生物学的撮影を理解し、放射線防護を概説できる
② エックス線画像の形成原理を概説できる
③ 頭部エックス線撮影の種類と適応を概説できる
④ 口内法ならびにパノラマエックス線写真のエックス線解剖の概要を表記できる
⑤ う蝕と歯周病および顎骨に生じる病変のエックス線所見を概説できる
⑥ 超音波検査、ＣＴおよびＭＲＩの原理と特徴を概説できる
⑦ 嚥下造営検査、嚥下内視鏡検査を概説できる

授業内容

【２年前期】

１） 歯科医療と放射線1
２） 歯科医療と放射線2
３） エックス線画像の形成1
４） エックス線画像の形成2
５） エックス線画像の形成3
６） 歯科におけるエックス線検査1
７） 歯科におけるエックス線検査2
８） 歯科におけるエックス線検査3
９） 歯科におけるエックス線検査4
１０） 歯科におけるエックス線検査5
１１） 口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割1
１２） 口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割2
１３） パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割1
１４） パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割2
１５） 写真処理と画像保管の実際1
１６） 写真処理と画像保管の実際2
１７） 写真処理と画像保管の実際3
１８） 放射線治療と口腔管理1
１９） 放射線治療と口腔管理2
２０） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯科放射線

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

歯科衛生科　シラバス

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科予防処置論
教科目	歯科予防処置		
授業形式	講義・演習・実習	単位(時間)	2単位（60時間）
開講時期	１年前期・後期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識
技術および態度を習得する
歯科予防処置について専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解する
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、
技術、および態度を理解する
う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、
技術、および態度を理解する

到達目標

総論

① 歯科予防処置の概念と内容を概説できる
② 歯科予防処置の法的位置づけと範囲、業務を概説できる
③ 歯周病予防、う蝕予防を概説できる
④ 実施する際に把握すべき対象者の情報を説明できる
⑤ 正常な歯・歯周組織と口腔の機能を説明できる
⑥ 歯・口腔の健康状態を把握するための項目を列挙できる
⑦ デンタルプラークの形成過程と成分を説明できる
⑧ 歯石の形成過程と成分を説明できる
⑨ う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる
⑩ 歯周病の原因と分類、進行及び予防方法を説明できる

歯周病予防処置

① 歯周病と生活習慣、全身疾患との関連を説明できる
② 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる
③ プローブの種類と操作方法を説明できる
④ 歯周病に関連する指標を説明できる
⑤ 歯・歯肉・口腔の検査ができる
⑥ 診査の結果を説明できる
⑦ 対象者の情報を分析し、歯周病予防計画を立案できる

う蝕予防処置

① う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を説明できる
② う蝕と全身疾患の関連を説明できる
③ う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性及び便宜性を説明できる
④ う蝕リスク判断のために行う、う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる
⑤ う蝕活動性試験のを実施できる
⑥ 対象者のう蝕活動性を評価し、う蝕予防プログラムを立案できる
⑦ フッ化物歯面塗布法に使用する薬剤の種類、濃度、取り扱いを説明できる
⑧ フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる
⑨ フッ化物歯面塗布の術式を説明できる
⑩ フッ化物歯面塗布法を実施できる

⑪　フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる

授業内容

【１年前期】

１）	歯科予防処置の概念	１．健康および疾病予防の概念
２）		２．第１次予防～第３次予防
３）		３．歯・口腔の予防法1
４）		３．歯・口腔の予防法2
５）		４．歯科予防処置の法的位置づけ
６）		５．歯科衛生士の行う歯科予防処置
７）	口腔の基礎知識	１．正常な口腔
８）		２．歯と歯周組織
９）		３．口腔の機能
１０）		４．歯冠と歯根
１１）	う蝕と歯周疾患の	１．口腔の付着物・沈着物1
１２）	基礎知識	１．口腔の付着物・沈着物2
１３）		２．プラークの形成過程・成分・分類
１４）		３．歯石の形成過程・成分・分類
１５）		４．歯周疾患の進行プロセス
１６）		５．歯周疾患の予防法
１７）	う蝕予防の基礎知識	１．う蝕の成り立ち
１８）		２．う蝕予防の臨床的効果
１９）		３．う蝕予防法の種類1
２０）		３．う蝕予防法の種類2
２１）		３．う蝕予防法の種類3
２２）		４．う蝕予防法の選択
２３）	フッ化物塗布	１．基礎知識
２４）		２．作用機序
２５）		３．安全性
２６）		４．術式の種類と方法1
２７）		４．術式の種類と方法2
２８）		５．フッ化物歯面塗布法ー実習1
２９）		５．フッ化物歯面塗布法ー実習2
３０）	前期総括	

【１年後期】

１）	う蝕活動性試験	１．基礎知識
２）		２．評価方法の種類と特徴
３）		３．う蝕活動性試験の分類1
４）		３．う蝕活動性試験の分類2
５）		４．う蝕活動性試験の実際
６）		５．う蝕活動性試験の実際ー実習1
７）		５．う蝕活動性試験の実際ー実習2
８）		５．う蝕活動性試験の実際ー実習3
９）		５．う蝕活動性試験の実際ー実習4
１０）	フッ化物洗口法	１．基礎知識
１１）		２．作用機序

１２）		３．洗口法の種類と方法
１３）		４．フッ化物洗口法ー実習1
１４）		４．フッ化物洗口法ー実習2
１５）		４．フッ化物洗口法ー実習3
１６）		４．フッ化物洗口法ー実習4
１７）	小窩裂溝填塞法	１．基礎知識
１８）		２．填塞材の種類と方法
１９）		３．小窩裂溝填塞ー実習1
２０）		３．小窩裂溝填塞ー実習2
２１）		３．小窩裂溝填塞ー実習3
２２）		３．小窩裂溝填塞ー実習4
２３）	口腔内の情報収集	１．歯・口腔の診査
２４）		２．歯肉の診査
２５）		３．付着物・沈着物の検査
２６）		４．プロービング・エキスプロービング1
２７）		４．プロービング・エキスプロービング2
２８）		５．画像診査　６．動揺検査　７．口臭検査1
２９）		５．画像診査　６．動揺検査　７．口臭検査2
３０）	後期総括	

使用教材

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を100点満点として評価する（60点以上　合格）

実技試験：履修項目の到達度について実施。各100点満点を項目数で平均する（合格60点以上）

総合評価：筆記試験と実技試験の点数を平均し科目の評価点とする（合格60点以上）

歯科衛生科　シラバス

分野		専門分野（必須）	教育内容	歯科予防処置論
教科目		歯科予防処置		
授業形式		講義・演習・実習	単位(時間)	2単位（60時間）
開講時期		２年前期・後期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験	あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識
技術および態度を習得する
歯科予防処置について専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解する
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、
技術、および態度を理解する
う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、
技術、および態度を理解する

到達目標

総論

① 歯科予防処置の概念と内容を概説できる
② 歯科予防処置の法的位置づけと範囲、業務を概説できる
③ 歯周病予防、う蝕予防を概説できる
④ 実施する際に把握すべき対象者の情報を説明できる
⑤ 正常な歯・歯周組織と口腔の機能を説明できる
⑥ 歯・口腔の健康状態を把握するための項目を列挙できる
⑦ デンタルプラークの形成過程と成分を説明できる
⑧ 歯石の形成過程と成分を説明できる
⑨ う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる
⑩ 歯周病の原因と分類、進行及び予防方法を説明できる

歯周病予防処置

① スケーラーの種類と使用目的を説明できる
② シックルタイプスケーラーを操作できる
③ キュレットタイプスケーラーを操作できる
④ 超音波スケーラー、エアースケーラーを操作できる
⑤ シャープニングができる
⑥ 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる
⑦ 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる
⑧ 歯面研磨剤の種類と用途を説明できる
⑨ 歯面清掃、歯面研磨ができる
⑩ ＳＰＴの目的を説明できる
⑪ ＳＰＴの処置内容を説明できる
⑫ ＳＰＴ実施時の注意点を説明できる
⑬ 歯周病におけるメインテナンスの目的を説明できる
⑭ メインテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる
⑮ 歯周病のリスクとメインテナンスの必要性を説明できる

う蝕予防処置

①　フッ化物洗口法の使用薬剤の種類、濃度、取り扱いを説明できる
②　対象年齢と洗口方法を説明できる
③　フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる
④　フッ化物配合歯磨剤の配合フッ化物の種類と特徴を説明できる
⑤　年齢に応じた使用量を説明できる
⑥　フッ化物配合歯磨剤の使用法を説明できる
⑦　小窩裂溝填塞材の種類と特徴を説明できる
⑧　小窩裂溝填塞の適応歯を説明できる
⑨　小窩裂溝填塞の術式を説明できる
⑩　小窩裂溝填塞を実施できる
⑪　小窩裂溝填塞実施上の注意点を説明できる
⑫　う蝕予防処置におけるメインテナンスの目的を説明できる
⑬　メインテナンス時の評価項目と方法、処置を説明でき
⑭　う蝕のリスクとメインテナンスの必要性を説明できる

授業内容

【２年前期】

１）	スケーリング	１．インスツルメント1
２）		１．インスツルメント2
３）		２．スケーラー基本操作1
４）		２．スケーラー基本操作2
５）		２．スケーラー基本操作3
６）		２．スケーラー基本操作4
７）		２．スケーラー基本操作5
８）		２．スケーラー基本操作6
９）		２．スケーラー基本操作7
１０）		２．スケーラー基本操作8
１１）		３．マニキン操作1
１２）		３．マニキン操作2
１３）		３．マニキン操作3
１４）		３．マニキン操作4
１５）	手用スケーラー	１．シックルタイプスケーラー　模型実習1
１６）		１．シックルタイプスケーラー　模型実習2
１７）		１．シックルタイプスケーラー　模型実習3
１８）		１．シックルタイプスケーラー　模型実習4
１９）		１．シックルタイプスケーラー　模型実習5
２０）		１．シックルタイプスケーラー　模型実習6
２１）		２．キュレットスケーラー　模型実習1
２２）		２．キュレットスケーラー　模型実習2
２３）		２．キュレットスケーラー　模型実習3
２４）		２．キュレットスケーラー　模型実習4
２５）		２．キュレットスケーラー　模型実習5
２６）		２．キュレットスケーラー　模型実習6

２７）　　３．シャープニング1
２８）　　３．シャープニング2
２９）　　３．シャープニング3
３０）　前期総括

【２年後期】
１）　相互実習基礎　　１．相互実習1
２）　　１．相互実習2
３）　　２．感染予防・手指消毒方法1
４）　　２．感染予防・手指消毒方法2
５）　　３．ヒヤリ・ハット防止の対策と対処方法
６）　スケーリング相互実習　１．シックルタイプスケーラー1
７）　スケーリング相互実習　１．シックルタイプスケーラー2
８）　スケーリング相互実習　１．シックルタイプスケーラー3
９）　スケーリング相互実習　１．シックルタイプスケーラー4
１０）　スケーリング相互実習　１．シックルタイプスケーラー5
１１）　スケーリング相互実習　１．シックルタイプスケーラー6
１２）　スケーリング相互実習　２．キュレットスケーラー1
１３）　スケーリング相互実習　２．キュレットスケーラー2
１４）　スケーリング相互実習　２．キュレットスケーラー3
１５）　スケーリング相互実習　２．キュレットスケーラー4
１６）　スケーリング相互実習　２．キュレットスケーラー5
１７）　スケーリング相互実習　２．キュレットスケーラー6
１８）　スケーリング相互実習　２．キュレットスケーラー7
１９）　スケーリング相互実習　２．キュレットスケーラー8
２０）　スケーリング相互実習　３．超音波・エアースケーラー1
２１）　スケーリング相互実習　３．超音波・エアースケーラー2
２２）　スケーリング相互実習　３．超音波・エアースケーラー3
２３）　スケーリング相互実習　３．超音波・エアースケーラー4
２４）　スケーリング相互実習　３．超音波・エアースケーラー5
２５）　スケーリング相互実習　３．超音波・エアースケーラー6
２６）　歯面清掃・歯面研磨（ＰＴＣ）　相互実習1
２７）　歯面清掃・歯面研磨（ＰＴＣ）　相互実習2
２８）　歯面清掃・歯面研磨（ＰＴＣ）　相互実習3
２９）　歯面清掃・歯面研磨（ＰＴＣ）　相互実習4
３０）　総括

使用教材
医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論

評価方法
成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を100点満点として評価する（60点以上　合格）
実技試験：履修項目の到達度について実施。各100点満点を項目数で平均する（合格60点以上）

総合評価：筆記試験と実技試験の点数を平均し科目の評価点とする（合格60点以上）

歯科衛生科　シラバス

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科予防処置論
教科目	歯科予防処置		
授業形式	講義・演習・実習	単位(時間)	4単位（120時間）
開講時期	３年前期・後期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識
技術および態度を習得する
歯科予防処置について専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解する
歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、
技術、および態度を理解する
う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、
技術、および態度を理解する

到達目標

①　１年次・２年次で習得した手技を臨床現場で実践できるよう展開できる
②　対象者の状況を把握し、SPT、メインテナンスの方向付けができる
③　臨床で行う歯科予防処置の知識・技能が習得できている

授業内容

【３年前期】

１）　ＰＭＴＣ　相互実習1
２）　ＰＭＴＣ　相互実習2
３）　ＰＭＴＣ　相互実習3
４）　ＰＭＴＣ　相互実習4
５）　ＰＭＴＣ　相互実習5
６）　ＰＭＴＣ　相互実習6
７）　事例検討　１．歯科衛生過程の進め方1
８）　１．歯科衛生過程の進め方2
９）　１．歯科衛生過程の進め方3
１０）　１．歯科衛生過程の進め方4
１１）　２．アセスメント1
１２）　２．アセスメント2
１３）　２．アセスメント3
１４）　２．アセスメント4
１５）　３．計画立案1
１６）　３．計画立案2
１７）　３．計画立案3
１８）　３．計画立案4
１９）　４．実施後の評価1
２０）　４．実施後の評価2
２１）　４．実施後の評価3
２２）　４．実施後の評価4
２３）　５．総合1
２４）　５．総合2
２５）　５．総合3
２６）　５．総合4
２７）　５．総合5
２８）　５．総合6
２９）　５．総合7
３０）　５．総合8

３１）　　５．総合9
３２）　総合実習　感染予防1
３３）　　感染予防2
３４）　　感染予防3
３５）　　感染予防4
３６）　　感染予防5
３７）　　感染予防6
３８）　　う蝕活動性試験1
３９）　　う蝕活動性試験2
４０）　　う蝕活動性試験3
４１）　　う蝕活動性試験4
４２）　　う蝕活動性試験5
４３）　　う蝕活動性試験6
４４）　　フッ化物応用法1
４５）　　フッ化物応用法2
４６）　　フッ化物応用法3
４７）　　フッ化物応用法4
４８）　　フッ化物応用法5
４９）　　フッ化物応用法6
５０）　　フッ化物応用法7
５１）　　フッ化物応用法8
５２）　　歯周検査1
５３）　　歯周検査2
５４）　　歯周検査3
５５）　　歯周検査4
５６）　　歯周検査5
５７）　　歯周検査6
５８）　　歯周検査7
５９）　　歯周検査8
６０）　　総括
【３年後期】　　総復習
１）　　手用スケーラー操作1
２）　　手用スケーラー操作2
３）　　手用スケーラー操作3
４）　　手用スケーラー操作4
５）　　手用スケーラー操作5
６）　　手用スケーラー操作6
７）　　手用スケーラー操作7
８）　　シャープニング1
９）　　シャープニング2
１０）　　エアースケーラー・超音波スケーラー操作1
１１）　　エアースケーラー・超音波スケーラー操作2
１２）　　エアースケーラー・超音波スケーラー操作3
１３）　　エアースケーラー・超音波スケーラー操作4
１４）　　エアースケーラー・超音波スケーラー操作5
１５）　　エアースケーラー・超音波スケーラー操作6
１６）　　エアースケーラー・超音波スケーラー操作7
１７）　　エアースケーラー・超音波スケーラー操作8
１８）　　ＰＴＣ1
１９）　　ＰＴＣ2
２０）　　ＰＴＣ3
２１）　　ＰＴＣ4
２２）　　ＰＴＣ5

２３）　　ＰＴＣ6
２４）　　ＰＴＣ7
２５）　　ＰＴＣ8
２６）　　ＰＭＴＣ1
２７）　　ＰＭＴＣ2
２８）　　ＰＭＴＣ3
２９）　　ＰＭＴＣ4
３０）　　ＰＭＴＣ5
３１）　　ＰＭＴＣ6
３２）　　ＰＭＴＣ7
３３）　　ＰＭＴＣ8
３４）　　ＰＭＴＣ9
３５）　　ＰＭＴＣ10
３６）　　総合演習1
３７）　　総合演習2
３８）　　総合演習3
３９）　　総合演習4
４０）　　総合演習5
４１）　　総合演習6
４２）　　総合演習7
４３）　　総合演習8
４４）　　総合演習9
４５）　　総合演習10
４６）　　総合演習11
４７）　　総合演習12
４８）　　総合演習13
４９）　　総合演習14
５０）　　総合演習15
５１）　　総合演習16
５２）　　総合演習17
５３）　　総合演習18
５４）　　総合演習19
５５）　　総合演習20
５６）　　総合演習21
５７）　　総合演習22
５８）　　総合演習23
５９）　　総合演習24
６０）　　総括

使用教材

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を100点満点として評価する（60点以上　合格）

実技試験：履修項目の到達度について実施。各100点満点を項目数で平均する（合格60点以上）

総合評価：筆記試験と実技試験の点数を平均し科目の評価点とする（合格60点以上）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科保健指導論
教科目	歯科保健指導		
授業形式	講義・演習・実習	単位(時間)	5単位（150時間）
開講時期	１～３年前期・後期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、
プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる地域、技術
および態度を習得する
歯科保険移動についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために、
大砲者の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラム
を計画立案する一連の方法を学ぶ
歯科保健指導の遂行に必要な、対象者の情報について収集する方法を習得する
口腔衛生管理を行うために必要な技能、技術および態度を習得する
生活習慣業の予防に応じた保健指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得
する
ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、専門的知識、技術
および態度を習得する
口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、九九う機能管理と指導を
行うために専門的知識、技術および態度を習得する
健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する

到達目標

総論

① 歯科保健指導の意義と特性を説明できる
② 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる
③ 歯科保健指導のマネジメントサイクルを理解し、全体像を説明できる
④ 歯科保険移動における書面化の意義を説明できる
⑤ 歯科保険移動に関わる理論と行動変容を説明できる
⑥ カウンセリングの基本を説明できる
⑦ 保健行動と行動変容の手法を理解し、活用できる
⑧ ハイリスクアプロ―チとポピュレーションアプローチを説明できる

情報収集

① 全身的な健康状態を把握できる
② 認知状態・精神状態を把握できる
③ 虐待の種類を説明できる
④ 服薬の把握ができる
⑤ ストレスの評価ができる
⑥ 対象者の生活習慣と異常の観察と評価ができる
⑦ 対象者の日常生活動作を把握できる
⑧ 歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる
⑨ 口腔清掃状態の指標を基に検査できる
⑩ 口腔機能のスクリーニングテストができる
⑪ 虐待の歯科的特徴を説明できる
⑫ 問診票を説明できる
⑬ 対象者に応じたコミュニケーションがとれる

口腔衛生管理

① 口腔衛生管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる
② 口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる
③ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の特徴を説明できる
④ 口腔衛生状態を説明できる
⑤ 口腔清掃方法の選択と指導ができる
⑥ 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる
⑦ 舌・口腔粘膜の清掃用具の選択と使用法の指導ができる
⑧ 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の選択と使用法の指導ができる
⑨ う蝕のリスクに応じた口腔衛生指導ができる
⑩ 歯周病のリスクに応じた口腔衛生指導ができる
⑪ 不正咬合に応じた口腔衛生指導ができる
⑫ 義歯装着に応じた口腔衛生指導ができる
⑬ 口臭に関する指導ができる

⑭　口腔乾燥に関する指導ができる
⑮　各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる
⑯　各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる
⑰　特別配慮を要する妊産婦・全身疾患患者・障害児者・要介護者・大規模災害被災者に対する口腔衛生指導ができる

生活習慣指導

①　口腔保健と生活習慣の関係を説明できる
②　非感染性疾患の種類と特徴および口腔との関連を説明できる
③　対象者の生活習慣の把握ができる
④　非感染性疾患を有する対象者の指導ができる
⑤　対象者のストレスマネジメントができる
⑥　非感染性疾患の症例に合わせた歯科保健指導ができる
⑦　対象者の疾患・異常のリスクに応じた生活習慣指導ができる
⑧　配慮を要する対象者の生活習慣指導ができる
⑨　禁煙指導と支援ができる

食生活指導

①　食生活・食習慣の背景を説明できる
②　健康を維持するための栄養情報を説明できる
③　食品とう蝕の関連性を説明できる
④　食品と歯科疾患の関連性を説明できる
⑤　う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる
⑥　咀嚼の働きを説明できる
⑦　栄養・食生活による歯・口腔の成長と発育の関連性を説明できる
⑧　栄養状態を把握し問題点を評価できる
⑨　食支援のための介入計画が立案できる
⑩　食支援に必要な歯科衛生介入ができる
⑪　食生活改善の取り組みとして口腔衛生と口腔機能の関連が説明できる
⑫　食生活指導について書面化できる
⑬　各ライフステージ別の食生活指導ができる
⑱　生活習慣病に応じた食生活指導ができる
⑲　障害児者・要介護者の食事介助の指導ができる
⑳　摂食嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる
㉑　人体の加齢と老化に伴う形態的および機能的な変化を概説できる
㉒　口腔機能リハビリテーションを概説できる
㉓　口腔機能低下に伴う全身疾患の種類と治療の概要を説明できる
㉔　チーム医療に関わる関連職種と歯科衛生士との連携のあり方を説明できる
㉕　口腔機能の現状を把握するための評価ができる
㉖　対象者の摂食嚥下状態の評価・検査ができる
㉗　対象者の歯科知慮の要否を概説できる
㉘　口腔期の訓練ができる
㉙　食事指導・支援や摂食介助ができる
㉚　嚥下障害・構音障害への対応が概説できる
㉛　各ライフステージ別の口腔機能管理と指導ができる
㉜　配慮を要する人への口腔機能管理と指導ができる

健康教育活動

①　健康教育の対象と場の特徴を説明できる
②　健康教育に必要な情報を収集できる
③　健康教育の計画立案ができる
④　健康教育の内容を説明できる
⑤　健康教育活動の工夫と留意点を説明できる
⑥　健康教育活動の方法を説明できる
⑦　健康教育活動の評価を説明できる
⑧　集団・組織・地域の実態が把握できる
⑨　対象者の特性とニーズの把握ができる
⑩　地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる
⑪　地域歯科保健事業における健康教育ができる
⑫　保育所・幼稚園の口腔保健の実態が把握できる
⑬　保育所・幼稚園を対象とした健康教育ができる
⑱　保育所、幼稚園の保育士、教員及び保護者を対象とした健康教育ができる
⑲　小学校・中学校・高校の口腔保健の実態が把握できる

⑳　小学校・中学校・高校を対象とした健康教育ができる
㉑　小学校・中学校・高校の教員及び保護者を対象とした健康教育ができる
㉒　事業所の口腔保健の実態が把握できる
㉓　事業所の従業員・衛生管理者を対象とした健康教育ができる
㉔　要介護者の家族・介護者・施設職員を対象とした健康教育ができる

授業内容

【１年前期】

１）　保健指導の概念　①保健指導の目的　②ヘルスプロモーション
２）　③歯科保健情報と収集方法
３）　④普及活動および評価
４）　生活行動　①生活習慣・ライフスタイル　②保健行動
５）　③行動変容　④セルフケア　⑤食生活
６）　歯・口腔及び全身状態の把握　①全身的な健康状態
７）　②口腔の観察
８）　③口腔の清掃状態と口腔清掃自立度
９）　④口腔機能
１０）　対象把握　①パーソナリティ
１１）　②日常の生活習慣行動
１２）　③生活環境
１３）　④日常生活の自立度
１４）　⑤媒体の利用法
１５）　前期総括

【１年後期】

１６）　口腔清掃法の基礎知識　①口腔清掃用具の種類と選択
１７）　②化学的清掃剤の種類と選択
１８）　③口腔清掃法
１９）　④口腔清掃法の指導1
２０）　④口腔清掃法の指導2
２１）　⑤義歯の清掃と保存管理
２２）　⑥口腔清掃状態の評価
２３）　基礎実習　使用法・管理法
２４）　口腔清掃法の術式1
２５）　口腔清掃法の術式2
２６）　口腔清掃法の術式3
２７）　口腔清掃法の術式4
２８）　口腔清掃状態の把握と評価１
２９）　口腔清掃状態の把握と評価２
３０）　後期総括

【２年前期】

１）　歯科保健に関する調査　①調査の種類
２）　伝達法　②質問調査票・コミュニケーション能力・対話法
３）　歯科衛生士業務記録　①基礎情報をアセスメント
４）　②指導計画・経過観察
５）　③評価・報告
６）　ライフステージ別指導の要点　①妊産婦　②乳児期
７）　③幼児期　④学齢期
８）　⑤青年期　⑥成人期　⑦老年期
９）　状態別指導法の要点　⑧全身疾患のある有病者　⑨要介護高齢者
１０）　⑩心身障がい者　⑪介護・福祉施設の利用者・入居者
１１）　集団指導法の基礎知識　①歯科衛生士の役割　②活動分野
１２）　③指導方針　④地域特性
１３）　学校・事業所等における活動　①保健所、市町村保健センター
１４）　②保育所、幼稚園
１５）　③学校、事業所
１６）　実習　①教育媒体の作成１
１７）　①教育媒体の作成２
１８）　①教育媒体の作成３
１９）　①教育媒体の作成４
２０）　①教育媒体の作成５

２１）　　②歯科保健教育１
２２）　　②歯科保健教育２
２３）　　②歯科保健教育３
２４）　　②歯科保健教育４
２５）　食事指導法の基礎知識　①食生活指針・食事バランスガイド
２６）　　②う蝕誘発性を持つ食品
２７）　　③栄養と歯科保健の関係
２８）　　④咀嚼と食品の性状
２９）　　⑤摂食・嚥下
３０）　前期総括

【２年後期】
３１）　食生活指導の要点　①食習慣の把握・改善
３２）　　②甘味嗜好の改善
３３）　相互実習　情報収集1
３４）　　情報収集2
３５）　　情報収集3
３６）　　口腔清掃1
３７）　　口腔清掃2
３８）　　口腔清掃3
３９）　　食生活習慣1
４０）　　食生活習慣2
４１）　　食生活習慣3
４２）　介護・社会福祉の現場における活動の基礎知識　①法律と制度1
４３）　介護・社会福祉の現場における活動の基礎知識　①法律と制度2
４４）　　②施設の理解1
４５）　在宅訪問指導　①居宅環境の把握、対象把握1
４６）　在宅訪問指導　①居宅環境の把握、対象把握2
４７）　　②病態の把握1
４８）　　②病態の把握2
４９）　　③口腔ケア1
５０）　　③口腔ケア2
５１）　　④食事の介助1
５２）　　④食事の介助2
５３）　　⑤家族、介護者への支援1
５４）　　⑤家族、介護者への支援2
５５）　　⑥感染防止対策1
５６）　　⑥感染防止対策2
５７）　介護・社会福祉施設　①利用者、入所者の把握
５８）　　②口腔ケア
５９）　　③食事介助
６０）　後期総括

【３年前期】
１）　口腔機能訓練の基礎知識　①口腔機能の種類
２）　　②評価法１
３）　　②評価法２
４）　　②評価法３
５）　　②評価法４
６）　　③訓練法１
７）　　③訓練法２
８）　　③訓練法３
９）　　③訓練法４
１０）　口腔ケア実習　①基本技術１
１１）　　①基本技術２
１２）　　①基本技術３
１３）　　①基本技術４
１４）　　②対象把握と機能評価１
１５）　　②対象把握と機能評価２
１６）　　②対象把握と機能評価３
１７）　　②対象把握と機能評価４

１８）　　②対象把握と機能評価５
１９）　　②対象把握と機能評価６
２０）　　③口腔機能訓練１
２１）　　③口腔機能訓練２
２２）　　③口腔機能訓練３
２３）　　③口腔機能訓練４
２４）　　③口腔機能訓練５
２５）　　③口腔機能訓練６
２６）　食生活指導の要点　①食習慣の把握・改善1
２７）　食生活指導の要点　①食習慣の把握・改善2
２８）　　②甘味嗜好の改善1
２９）　　②甘味嗜好の改善2
３０）　総括

【３年後期】
３１）　相互実習　情報収集1
３２）　　情報収集2
３３）　　情報収集3
３４）　　情報収集4
３５）　　口腔清掃1
３６）　　口腔清掃2
３７）　　口腔清掃3
３８）　　口腔清掃4
３９）　　食生活習慣1
４０）　　食生活習慣2
４１）　　食生活習慣3
４２）　介護・社会福祉の現場における活動の基礎知識　①法律と制度1
４３）　介護・社会福祉の現場における活動の基礎知識　①法律と制度2
４４）　　②施設の理解1
４５）　総合演習実習1
４６）　総合演習実習2
４７）　総合演習実習3
４８）　総合演習実習4
４９）　総合演習実習5
５０）　総合演習実習6
５１）　総合演習実習7
５２）　総合演習実習8
５３）　総合演習実習9
５４）　総合演習実習10
５５）　総合演習実習11
５６）　総合演習実習12
５７）　総合演習実習13
５８）　総合演習実習14
５９）　総合演習実習15
６０）　後期総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を100点満点として評価する（60点以上　合格）

実技試験：履修項目の到達度について実施。各100点満点を項目数で平均する（合格60点以上）

総合評価：筆記試験と実技試験の点数を平均し科目の評価点とする（合格60点以上）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科保健指導論
教科目	口腔保健管理		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	２年後期・３年前期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助を総合的にとらえ、歯科衛生士が臨床の場において口腔健康管理プログラムを作成し、実践する力を習得する

到達目標

① 健康教育について理論的に理解する

② 歯科予防の臨床と歯周疾患予防の臨床の基礎知識を理解する

③ 病勢阻止のための第２次予防について基礎的知識を理解する

④ ライフステージごとの口腔保健管理計画の理論と実際を理解する

⑤ 歯周病の継続管理のための口腔観察の方法を列挙できる

⑥ ホームケア、プロフェッショナルケア、ＰＭＴＣについて説明できる

⑦ 業務記録について説明でき、作成できる

授業内容

【２年後期】

１） 口腔疾患予防の臨床　①口腔保健の意義

２）　②対象把握と予防管理法

３）　③病勢阻止のための継続管理

４） 障害を通じた口腔保健管理　①目的

５）　②実際1

６）　②実際2

７）　③場の理解1

８）　③場の理解2

９） 口腔観察と口腔清掃　①口腔観察と記録　1

１０） 口腔観察と口腔清掃　①口腔観察と記録　2

１１）　②ホームケアとプロフェッショナルケア1

１２）　②ホームケアとプロフェッショナルケア2

１３）　③口腔清掃1

１４）　　③口腔清掃2

１５）　総括

【３年前期】

１）　業務記録　①はじめに　②目的と意義

２）　　③種類と形式

３）　　④記入上の注意

４）　　⑤臨床の場における業務記録1

５）　　⑤臨床の場における業務記録2

６）　　⑥訪問歯科保健指導の業務記録1

７）　　⑥訪問歯科保健指導の業務記録2

８）　　⑦地域保健の場における業務記録1

９）　　⑦地域保健の場における業務記録2

１０）　口腔保健管理の実際　①ポイント

１１）　　②学童期の指導

１２）　　③歯周疾患患者の継続指導

１３）　　④要介護高齢者の指導1

１４）　　④要介護高齢者の指導2

１５）　総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　口腔保健管理

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科診療補助論
教科目	歯科診療補助		
授業形式	講義・演習・実習	単位(時間)	6単位（240時間）
開講時期	１～３年前期・後期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。
専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する
医科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する
保存治療の補助のために、必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する
補綴治療の補助のために、必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する
口腔外科治療や歯科麻酔時の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する
矯正歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する
小児歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤及び器材の使用方法を習得する
高齢者歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤及び器材の使用法を習得する
障害児者歯科治療の補助のために必要な患者対応、摂食嚥下の検査および訓練法を習得する
エックス線写真撮影時の補助のために必要な撮影手順、放射線防御の方法を習得する
救急救命処置のために必要なバイタルサインの測定や処置器材の説明を習得する

到達目標

概要
① 歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを説明できる
② 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる
③ チーム歯科医療の必要性を説明できる
④ 歯科訪問診療のための保健・医療・福祉のシステムを概説できる

情報収集
① 医療面接で全身及び航空の自覚症状を読み取ることができる
② 全身疾患の症状を読み取ることができる
③ 生体検査の方法と結果を読み取ることができる
④ 血液検査の結果を読み取ることができる
⑤ モニター検査の結果を読み取ることができる
⑥ 心身の成長・発達の状態を把握できる
⑦ 服薬の状態を把握できる
⑧ 歯科治療に必要な検査で他覚症状を読み取ることができる

患者への対応
① 全身疾患を考慮した対応ができる
② 高齢者に配慮した対応ができる
③ 妊産婦に配慮した対応ができる
④ 通院困難者に配慮した対応ができる
⑤ 障害に配慮した対応ができる
⑥ 感染に配慮した対応ができる

診療時の共同動作
① フォーハンドシステムの基本動作ができる
② 診療に応じた器具の受け渡しができる
③ 診療に応じたバキューム操作ができる

診療設備の管理
① 診療設備が整えらえる
② エアーコンプレッサーの管理ができる
③ 歯科用ユニットの管理ができる

④　口腔外バキュームの管理ができる
⑤　エックス線撮影装置の管理ができる
⑥　酸素吸入器の管理ができる
⑦　レーザー装置の管理ができる
⑧　薬品、歯科材料の管理ができる

医療安全管理
①　感染に応じた対応ができる
②　スタンダードプリコーションができる
③　医療廃棄物の取り扱いができる
④　偶発事故に適切な対応ができる
⑤

消毒・滅菌
①　消毒薬、各種滅菌器械、器具の準備ができる
②　消毒薬、各種滅菌器械、器具の操作・取り扱いができる
③　消毒薬、各種滅菌器械、器具の管理ができる

模型用材料
①　模型用材料の種類と基本的性質を説明できる
②　模型用材料の取り扱いができる

合着・接着材・仮着用材料
①　合着・接着材・仮着用材料の種類と基本的材料を説明できる
②　各種合着・接着材・仮着用材料の取り扱いができる

印象用材料
①　印象材の種類と基本的知識を説明できる
②　各種印象材を練和できる
③　概形印象の採得ができる

歯冠修復用材料
①　歯冠修復材の種類と基本的性質を説明できる
②　歯冠修復材の取り扱いができる

仮封用材料
①　仮封用材料の種類と基本的性質を説明できる
②　仮封用の取り扱いができる

その他の材料
①　ワックスの基本的性質を説明できる
②　義歯用材料の基本的性質を説明できる
③　インプラント用材料の使用目的を説明できる

保存治療時の前準備
①　防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる
②　ラバーダム防湿ができる
③　隔壁法に用いる器具の操作ができる
④　歯肉排除法に用いる器具の操作・取り扱いができる
⑤　歯間分離法に用いる器具の操作ができる

窩洞形成
①　切削用器械、器具の準備ができる

直接修復
①　コンポジットレジン修復の手順を説明できる
②　歯面処理材料の準備ができる
③　コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる
④　グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる
⑤　グラスアイオノマーセメント修復の器材や材料の準備ができる

間接修復
①　インレー修復の手順を説明できる
②　インレー修復の準備ができる
③　合着後の余剰セメントの除去ができる

歯の漂白
①　漂白法の適応症を説明できる

②　漂白法の種類を説明できる
③　漂白法の手順を説明できる
④　漂白法の器材・薬剤の準備ができる
⑤　漂白後の術後指導の内容を説明できる

歯髄処置
①　歯髄処置の手順を説明できる
②　歯髄処置の薬剤や機材の準備ができる
③　電気歯髄診断器の準備ができる

根管処置
①　根管処置の薬剤や器材の準備ができる
②　根管長測定器の準備ができる
③　根管充填の薬剤や器材の準備ができる

外科的歯内療法
①　外科的歯内療法の器材の準備ができる

歯周外科治療
①　歯周外科治療の手順を説明できる
②　歯周外科治療の薬剤や器具の準備ができる
③　歯周用パックの取り扱いができる

補綴治療時の検査
①　各種検査の手順を説明できる
②　各種検査で用いる器材の準備ができる

印象採得
①　印象採得の手順を説明できる
②　印象採得で用いる器材の操作ができる

咬合採得
①　咬合採得の手順を説明できる
②　咬合採得で用いる器材の操作ができる
③　咬合床作製の手順を説明できる
④　咬合床用材料の性質を説明できる

プロビジョナルレストレーション
①　プロビジョナルレストレーションの作製手順を説明できる
②　プロビジョナルレストレーションの調整方法を説明できる

補綴装置の装着
①　床義歯装着時に用いる器材の準備ができる
②　クラウン・ブリッジ装着時に用いる器材の準備ができる
③　義歯装着後の指導ができる
④　インプラント装着後の指導ができる

抜歯
①　手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる
②　抜歯用器材の準備と取り扱いができる
③　抜歯後の注意を説明できる

小手術
①　手術同意書を用いたインフォームド・コンセントを説明できる
②　各種小手術に用いる器材の準備と取り扱いができる
③　各種小手術後の説明ができる

止血処置
①　止血法を説明できる
②　止血薬の種類を説明できる
③　止血薬の取り扱いができる

縫合
①　縫合用器材の種類を説明できる
②　縫合用器材の準備と取り扱いができる

麻酔
①　局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取り扱いができる
②　精神鎮静法の器材・薬剤の準備と取り扱いができる

③　全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助ができる
矯正歯科治療の器具・器材
①　矯正歯科用器材の種類を説明できる
矯正歯科治療の検査記録
①　口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる
②　頭部エックス線規格写真のトレース法を説明できる
③　矯正用口腔模型の作製法を説明できる
矯正歯科治療の装置の装着
①　歯面清掃ができる
②　接着材の種類と用途を説明できる
③　接着剤の取り扱いができる
④　帯環の種類を説明できる
⑤　帯環の取り扱いができる
⑥　ワイヤーの種類と用途を説明できる
⑦　ワイヤーの取り扱いができる
⑧　ブラケットの種類と用途を説明できる
⑨　ブラケットの取り扱いができる
⑩　結紮の方法を説明できる
⑪　矯正装置装着後の指導ができる
矯正歯科治療の装置の撤去
①　撤去に必要な器具の種類を説明できる
②　撤去に必要な器具の取り扱いができる
小児歯科の歯科治療
①　小児の状態把握と対応ができる
②　治療に必要な器材・薬剤の準備ができる
③　ラバーダム防湿ができる
高齢者の歯科治療
①　高齢者の状態把握と対応ができる
②　外来診療と訪問診療の補助を概要出来る
③　治療に必要な薬剤や器材の準備ができる
④　口腔衛生管理の概要を説明できる
⑤　摂食嚥下障害への対応ができる
障害児者の歯科治療
①　障害児者の状態把握と対応ができる
②　治療前の導入法を説明できる
③　治療中の胎動の調整法を説明できる
④　外来診療と訪問診療の補助を概説できる
⑤　治療に必要なやうざいや器材の準備ができる
⑥　口腔衛生管理の概要が説明できる
⑦　摂食嚥下障害への対応ができる
撮影装置と取り扱い
①　エックス線撮影装置の準備ができる
②　歯科用・パノラマ用撮影装置・デジタル画像システムの取り扱いを説明できる
口内法撮影
①　頭部の固定ができる
②　口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる
③　パノラマエックス線撮影の準備ができる
写真の処理と管理
①　写真の処理ができる
②　写真の画像管理ができる
放射線の人体への影響と防護
①　放射線の人体への影響を説明できる
②　放射線防護の準備ができる
③　患者や術者の放射線防護ができる
④　被爆量の測定準備ができる

全身管理とモニタリング
① バイタルサインの測定ができる
② 意識レベルの把握ができる
③ 血圧、脈拍、心機能、呼吸のモニタリングができる
救急救命処置
① 一次救命処置の手順を説明できる
② 一次救命処置に用いる器材の準備ができる
③ 二次救命処置の手順を説明できる
④ 二次救命処置に用いる器材の準備ができる
⑤ ＡＥＤの取り扱いができる
⑥ 全身的偶発症への対応ができる

授業内容
【１年前期】
１） 歯科診療補助の基礎的理論 ①歯科診療補助の意義 ②法的位置づけ
２） ③歯科衛生士の行う歯科医行為
３） ④チーム医療の基礎
４） ⑤歯科診療補助の流れ
５） 医療事故 ①リスクマネジメント1
６） 医療事故 ①リスクマネジメント2
７） 感染予防 ①医療安全と感染予防の意義 1
８） 感染予防 ①医療安全と感染予防の意義 2
９） ②スタンダードプリコーション1
１０） ②スタンダードプリコーション2
１１） ③ハイリスク患者の器材の取り扱い1
１２） ③ハイリスク患者の器材の取り扱い2
１３） ④偶発事故の防止と対策 ⑤ヒヤリハット
１４） 感染防止対策 ①洗浄・消毒・滅菌の定義
１５） ②洗浄法・消毒法・滅菌法1
１６） ②洗浄法・消毒法・滅菌法2
１７） ②手指消毒・診療室での管理システム1
１８） ②手指消毒・診療室での管理システム2
１９） 実習1
２０） 実習2
２１） 実習3
２２） 歯科診療補助業務の基礎知識 ①治療時における患者への対応
２３） ②服薬指導
２４） ③歯科診療室の管理1
２５） ③歯科診療室の管理2
２６） ④医薬品・歯科材料の管理1
２７） ④医薬品・歯科材料の管理2
２８） チェアサイドの共同動作 ①共同動作の基本1
２９） ①共同動作の基本2
３０） ②ポジショニング
３１） 実習1
３２） 実習2
３３） 実習3
３４） 実習4
３５） ③器具の受け渡し
３６） 実習1
３７） 実習2
３８） 実習3
３９） 実習4
４０） 総括

【１年後期】
４１）　④バキュームテクニック1
４２）　④バキュームテクニック2
４３）　実習1
４４）　実習2
４５）　実習3
４６）　実習4
４７）　実習5
４８）　実習6
４９）　⑤ラバーダム防湿・歯肉圧排1
５０）　⑤ラバーダム防湿・歯肉圧排2
５１）　実習1
５２）　実習2
５３）　実習3
５４）　実習4
５５）　実習5
５６）　実習6
５７）　医療廃棄物の取り扱い　①廃棄物の定義
５８）　②歯科診療室で発生する廃棄物
５９）　歯科材料の基礎知識　①分類、基本的性質1
６０）　①分類、基本的性質2
６１）　①分類、基本的性質3
６２）　①分類、基本的性質4
６３）　①分類、基本的性質5
６４）　各種材料の取り扱いと管理法　①印象材1
６５）　①印象材2
６６）　実習1
６７）　実習2
６８）　実習3
６９）　実習4
７０）　実習5
７１）　実習6
７２）　②模型用材料
７３）　実習1
７４）　実習2
７５）　実習3
７６）　③合着材および接着剤
７７）　実習1
７８）　実習2
７９）　実習3
８０）　総括

【２年前期】
１）　各治療の診療補助　④形成歯冠修復材1
２）　④形成歯冠修復材2
３）　実習1
４）　実習2
５）　実習3
６）　実習4
７）　実習5
８）　実習6
９）　実習7
１０）　実習8
１１）　⑤仮封材・ワックス
１２）　実習1

１３）　　実習2
１４）　　実習3
１５）　　実習4
１６）　　実習5
１７）　　実習6
１８）　歯科衛生士がかかわる医科疾患患者1
１９）　歯科衛生士がかかわる医科疾患患者2
２０）　治療時の補助業務の考え方　①診療補助と介助の違い
２１）　各治療の診療補助　①保存修復1
２２）　　①保存修復2
２３）　　②歯内療法1
２４）　　②歯内療法2
２５）　　③歯周外科1
２６）　　③歯周外科2
２７）　　④補綴治療1
２８）　　④補綴治療2
２９）　　⑤口腔外科治療1
３０）　　⑤口腔外科治療2
３１）　　⑥歯科麻酔時1
３２）　　⑥歯科麻酔時2
３３）　　⑦矯正歯科治療1
３４）　　⑦矯正歯科治療2
３５）　　⑧小児歯科治療1
３６）　　⑧小児歯科治療2
３７）　　⑨周術期1
３８）　　⑩歯科訪問診療1
３９）　　⑥高齢者歯科治療1
４０）　総括

【２年後期】
４１）　臨床実習前総合実習１
４２）　臨床実習前総合実習２
４３）　臨床実習前総合実習３
４４）　臨床実習前総合実習４
４５）　臨床実習前総合実習５
４６）　臨床実習前総合実習６
４７）　臨床実習前総合実習７
４８）　臨床実習前総合実習８
４９）　臨床実習前総合実習９
５０）　臨床実習前総合実習１０
５１）　エックス線写真撮影の補助　①安全と防御
５２）　　②患者説明　③セッティング1
５３）　　②患者説明　③セッティング2
５４）　　④各種装置
５５）　　⑤口内法撮影・フィルムの現像と管理1
５６）　　⑤口内法撮影・フィルムの現像と管理2
５７）　　実習1
５８）　　実習2
５９）　　実習3
６０）　　実習4
６１）　　⑥口外法撮影・フィルムの現像と管理1
６２）　　⑥口外法撮影・フィルムの現像と管理2
６３）　　実習1
６４）　　実習2
６５）　　実習3

６６）　　実習4
６７）　生体検査　①体温・脈拍・血圧1
６８）　　①体温・脈拍・血圧2
６９）　　実習1
７０）　　実習2
７１）　　実習3
７２）　　実習4
７３）　　②心電図・筋電図1
７４）　　②心電図・筋電図2
７５）　生体検査　③摂食嚥下機能検査
７６）　　実習1
７７）　　実習2
７８）　　実習3
７９）　　実習4
８０）　総括

【３年前期】
１）　検体検査　①血液学的検査
２）　　②血液凝固検査
３）　　③生化学・免疫血清学的検査
４）　　④細菌検査
５）　　⑤病理学・分子生物学的検査
６）　口腔領域の臨床検査　①口臭検査　②味覚検査1
７）　　①口臭検査　②味覚検査2
８）　　実習1
９）　　実習2
１０）　　実習3
１１）　　実習4
１２）　③金属アレルギー検査
１３）　④唾液検査
１４）　　実習1
１５）　　実習2
１６）　　実習3
１７）　　実習4
１８）　実習　　スタンダードプリコーション・滅菌衝動・共同動作１
１９）　　スタンダードプリコーション・滅菌衝動・共同動作２
２０）　　スタンダードプリコーション・滅菌衝動・共同動作３
２１）　　スタンダードプリコーション・滅菌衝動・共同動作４
２２）　　印象採得１
２３）　　印象採得２
２４）　　印象採得３
２５）　　印象採得４
２６）　　印象採得５
２７）　　印象採得６
２８）　　模型作製１
２９）　　模型作製２
３０）　　模型作製３
３１）　　模型作製４
３２）　　模型作製５
３３）　　模型作製６
３４）　　暫間被覆冠作成１
３５）　　暫間被覆冠作成２
３６）　　暫間被覆冠作成３
３７）　　暫間被覆冠作成４
３８）　　暫間被覆冠作成５

３９）　　暫間被覆冠作成６
４０）　　総括

【３年後期】
４１）救急処置　①バイタルサインの把握　②モニタリング1
４２）救急処置　①バイタルサインの把握　②モニタリング2
４３）　　実習1
４４）　　実習2
４５）　②一次救急救命（学外実習含む）1
４６）　②一次救急救命（学外実習含む）2
４７）　②一次救急救命（学外実習含む）3
４８）　②一次救急救命（学外実習含む）4
４９）　②一次救急救命（学外実習含む）5
５０）　②一次救急救命（学外実習含む）6
５１）　②一次救急救命（学外実習含む）7
５２）　②一次救急救命（学外実習含む）8
５３）　③二次救命処置
５４）　④静脈路の確保
５５）その他の処置①神経性ショック②過換気症候群③アナフィラキシーショック1
５６）その他の処置①神経性ショック②過換気症候群③アナフィラキシーショック2
５７）実習　　撮影１
５８）　　撮影２
５９）　　歯牙漂白１
６０）　　歯牙漂白２
６１）　　隔壁法１
６２）　　隔壁法２
６３）　　ワックス１
６４）　　ワックス２
６５）　　咬合採得１
６６）　　咬合採得２
６７）　　合着材・接着剤１
６８）　　合着材・接着剤２
６９）　　合着材・接着剤３
７０）　　仮着用材料１
７１）　　仮着用材料２
７２）　　歯冠修復用材料１
７３）　　歯冠修復用材料２
７４）　　歯冠修復用材料３
７５）　　仮封用材料１
７６）　　仮封用材料２
７７）　　総合演習１
７８）　　総合演習２
７９）　　総合演習３
８０）　　総合演習４

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を100点満点として評価する（60点以上　合格）

実技試験：履修項目の到達度について実施。各100点満点を項目数で平均する（合格60点以上）

総合評価：筆記試験と実技試験の点数を平均し科目の評価点とする（合格60点以上）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科診療補助論
教科目	歯科材料		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	１年後期	担当	永松有紀・小園凱夫・専任教員
実務経験 あり	小園凱夫：元九州歯科大学歯学部教授。現本校兼任教員。 永松有紀：現九州歯科大学歯学部助教。本校兼任教員。		

概要

歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する

到達目標

① 印象材の種類と基本的性質を説明できる
② 模型用材料の種類と基本的性質を説明できる
③ 合着材・接着材・仮着用材料の種類と基本的性質を説明できる
④ 歯冠風副材の種類と基本的性質を説明できる
⑤ 仮封材の種類と基本的性質を説明できる
⑥ ワックスの基本的性質を説明できる
⑦ 義歯用材料の基本的性質を説明できる
⑧ インプラント用材料の使用目的を説明することができる
⑨ 各種歯科材料を理解し、取り扱うことが出来る

授業内容

【１年後期】

１） 歯科衛生にかかわる材料
２） 印象材－１
３） 模型用材料－１
４） 合着材・接着材－１
５） 成形修復材
６） 仮封材
７） 暫間修復材と仮着用セメント
８） ワックス
９） 金属
１０） セラミックス
１１） その他の歯科材料
１２） 印象材－２
１３） 模型用材料－２
１４） 合着材・接着材－２
１５） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　歯科材料

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
実技評価点を１００点満点に換算し評価する（６０点以上　合格）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科診療補助
教科目	臨床検査		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	１年後期	担当	高井　周二・専任教員
実務経験　あり	臨床検査技師として医療に従事。現本校兼任教員。		

概要

患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報、基本的検査、一般検査の意義を理解する

専門的な歯科診療の補助のために必要な基本的知識、技術を習得する

到達目標

① バイタルサインのモニタリングを概説できる
② 全身状態の症状を読み取ることができる
③ 生体検査の方法と結果を読み取ることができる
④ 血液検査の結果を読み取ることができる
⑤ モニター検査の結果を読み取ることができる
⑥ 歯・歯髄・歯周組織検査を説明できる
⑦ 歯列・咬合、下顎運動、筋機能、咀嚼機能検査の意義を説明できる
⑧ 舌運動・舌圧検査、唾液検査、摂食嚥下機能検査の意義を説明できる
⑨ 構音機能検査、味覚検査、口臭検査、微生物学的検査の意義を説明できる

授業内容

【1年後期】

１） 臨床検査とは　①倫理と安全　②意義　③検査方法
２）　④検査成績の読み方
３） 生体検査　②検温検査　②脈拍検査
４）　③血圧検査　④心機能検査
５）　⑤肺機能検査　⑥筋電図検査
６）　⑦脳波検査　⑧血中酸素濃度検査
７） 検体検査　①血液を用いる検査
８）　②感染症検査　③病理検査
９） 口腔領域の臨床検査　①口臭　②味覚　③歯科金属アレルギー
１０）　④舌　⑤口腔粘膜
１１）　⑥唾液
１２）　⑦歯周組織　⑧歯　９根管内細菌培養
１３） 摂食嚥下障害の検査法
１４） 主な疾患・病態別検査値のとらえ方
１５） 総括

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　臨床検査

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科診療補助
教科目	看護学		
授業形式	講義	単位(時間)	１単位（15時間）
開講時期	２年後期	担当	秋吉　節子
実務経験　あり	保健師、看護師として医療に従事。本校兼任教員。		

概要

医療機関における歯科衛生士の役割、看護の理念、歯科衛生士に必要な看護技術、
看護実態について理解する

到達目標

① わが国および世界における人口動態と社会情勢の変化を理解する
② 高齢化社会に伴う疾病構造の変化を理解する
③ 病院の機構とさまざまな職種の役割を理解する
④ 看護の理念を理解する
⑤ バイタルサインの正常と異常を学習する
⑥ バイタルアインの測定を迅速かつ的確に行う手技を身につける
⑦ コミュニケーションについての基本的知識を学ぶ
⑧ 患者の特性に応じた適切な対応、援助のための立場、役割を理解する
⑨ 患者の安全、安楽を守るための効果的な罨法を学ぶ
⑩ 楽しく食べることの重要性を理解する
⑪ 薬物の種類、正しい投与方法について理解する
⑫ 患者の診療介助、全身状態の観察、対応などを経過に追って記録できる
⑬ 基本的看護のとくっ性を理解し、適切な援助、診療介助ができる
⑭ 患者の全身状態の把握や観察を確実に行うことができる
⑮ 口腔ケアについて理解し、患者に実践できる能力を身につける
⑯ 洗浄・消毒・滅菌の定義と基本的な方法を理解し、取り扱うことができる
⑰ 患者の状態を把握し、起こりうる危険を予知して、緊急時に迅速に適切な対応ができる
⑱ 平均寿命の延長と超高齢化社会の到来状況が理解できる
⑲ 高齢者に対する保健・医療・福祉の現行制度とサービス体系の内容を理解できる
⑳ 医療チームの一員として役割や連携のために必要な事項が理解できる
㉑ 在宅医療の必要性と、職種について理解できる
㉒ 高齢者や家族の立場に立って援助することの重要性を理解できる

授業内容

【２年後期】

１） 病院における歯科衛生士の役割1

２） 病院における歯科衛生士の役割2

３） 看護の理念1

４） 看護の理念2

５） 歯科衛生士が知っておくべき看護技術1

６） 歯科衛生士が知っておくべき看護技術2

７） 歯科衛生士が知っておくべき看護技術3

８） 歯科衛生士が知っておくべき看護技術4

９） 歯科衛生士に必要な看護実務1

１０） 歯科衛生士に必要な看護実務2

１１） 歯科衛生士に必要な看護実務3

１２） 歯科衛生士に必要な看護実務4

１３） 地域医療活動における歯科衛生士の役割1

１４） 地域医療活動における歯科衛生士の役割2

１５） 総括

医歯薬出版　歯科衛生科のための看護学大意　第３版

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載

定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門分野（必須）	教育内容	歯科診療補助
教科目	臨地実習		
授業形式	講義	単位(時間)	20単位（900時間）270：630
開講時期	２年後期・３年前期	担当	各実習施設　実務経験者

実務経験	あり	各実習歯科医院において、歯科医師、歯科衛生士として歯科医療に従事。 本校臨床実習施設指導者

概要

既習の知識・技能を実践と結びつけながら業務の理解を深め、実践能力を養う

到達目標

① 計画的・合理的な介補ができる
② 機敏さと臨機応変の処置ができる
③ 仕事に対する創意・工夫・能率化ができる
④ 正確・丁寧・安全にできる
⑤ 観察・記録が適切に確実にできる
⑥ 指示通りの処置ができる
⑦ 基礎学理の理解ができる
⑧ 歯科用語の使用ができる
⑨ 研究心を持つことができる
⑩ 責任感をもつことができる
⑪ 計画性を持って行動できる
⑫ 積極的に行動できる
⑬ 忍耐力を持って行動できる
⑭ 清潔で清楚な服装ができる
⑮ 適切な身だしなみができる
⑯ 適切な話し方ができる
⑰ 素直な返事ができる
⑱ 協調性を持って行動できる
⑲ 親切・丁寧に一年することができる
⑳ 自発的な整理・整頓・清掃ができる
㉑ 器材・物品の取り扱いが適切にできる
㉒ 健康に留意することができる

授業内容

【２年次】

介護施設実習
保育園・幼稚園実習
歯科臨床実習

【３年次】

歯科臨床実習

各科目総合

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門分野（必須）	教育内容	選択必修分野
教科目	接遇作法		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	１年前期	担当	根岸由紀江
実務経験　あり	マナーインストラクター。本校兼任教員。		

概要

社会人、医療人としてのマナーを学ぶ

到達目標

①社会人としてのマナー、コミュニケーション力を身につける
②医療人としてのマナー、コミュニケーション力、対応力を身につける

授業内容

【1年前期】

１） オリエンテーション・なぜ接遇が大切なのか1
２） オリエンテーション・なぜ接遇が大切なのか2
３） 第一印象の重要性・マナー5原則（①表情　②身だしなみ）1
４） 第一印象の重要性・マナー5原則（①表情　②身だしなみ）2
５） マナー5原則（③話し方➡尊敬語、謙譲語、丁寧語）1
６） マナー5原則（③話し方➡尊敬語、謙譲語、丁寧語）2
７） マナー5原則（③話し方➡クッション言葉、ＮＧ言葉）1
８） マナー5原則（③話し方➡クッション言葉、ＮＧ言葉）2
９） マナー5原則（④仕事・態度　⑤挨拶）1
１０） マナー5原則（④仕事・態度　⑤挨拶）2
１１） ご案内、お茶出し、席次のマナー1
１２） ご案内、お茶出し、席次のマナー2
１３） 電話対応1
１４） 電話対応2
１５） コミュニケーション力（聞く力）1
１６） コミュニケーション力（聞く力）2
１７） コミュニケーション力（伝える力）1
１８） コミュニケーション力（伝える力）2
１９） コミュニケーション力（共感力）1
２０） コミュニケーション力（共感力）2
２１） 報連相1
２２） 報連相2
２３） クレーム対応について1
２４） クレーム対応について2
２５） クレーム対応について3
２６） クレーム対応（アンガーマネジメント）1
２７） クレーム対応（アンガーマネジメント）2
２８） 自律型人材になろう1
２９） 自律型人材になろう2
３０） 総括

オリジナルテキスト

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門分野（必須）	教育内容	選択必修分野
教科目	医療事務		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	１年後期・2年前期	担当	後藤　祥子
実務経験　あり	医療事務管理しとして医療事務に従事。本校兼任教員。		

概要

日本の保健制度を理解し、保険請求事務に関する知識を習得する

到達目標

保険の仕組みを理解し、診療報酬点数を算定できるようになる
カルテの内容を理解して、診療報酬点数を算定できるようになる

授業内容

【１年後期】

１）　医療保険について
２）　診療報酬について
３）　初診料について
４）　再診料について
５）　練習１
６）　練習２
７）　投薬料について
８）　練習１
９）　文章問題
１０）　注射料について
１１）　練習
１２）　文章問題
１３）　総合練習１
１４）　総合練習２
１５）　総括

【２年前期】

１）　処置料
２）　練習
３）　ギプス料
４）　練習
５）　処置料　カルテ点数計算
６）　練習
７）　手術料・麻酔料
８）　練習
９）　輸血料
１０）　練習
１１）　手術・麻酔・輸血　文章問題
１２）　カルテからの点数算定１
１３）　カルテからの点数算定２
１４）　カルテからの点数算定３
１５）　総括

社会保険研究所　医科診療報酬点数表
社会保険研究所　レセプト作成テキストブック

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門分野（必須）	教育内容	選択必修分野
教科目	介護概論		
授業形式	講義	単位(時間)	1単位（15時間）
開講時期	1年後期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

わが国の高齢化や高齢者の生活・社会環境等を理解し、支援する方法について学ぶ
また、歯科衛生士の業務としての口腔機能向上について理解する

到達目標

① 介護の基本を理解する
② 老化について理解する
③ 障害について理解する
④ 介護におけるコミュニケーション技術を習得する
⑤ 口腔ケアについて説明できる
⑥ 摂食嚥下について説明できる
⑦ 口腔内状況と評価方法を説明できる
⑧ スクリーニング検査を説明できる
⑨ 摂食嚥下機能の異常について説明できる
⑩ 機能訓練について説明できる

授業内容

【１年後期】

１） 介護の基本
２） 老化の理解－１
３） 老化の理解－２
４） 障害の理解ー１
５） 障害の理解ー２
６） 障害の理解－３
７） 介護におけるコミュニケ―ション－１
８） 介護におけるコミュニケ―ション－２
９） 口腔ケアの定義、考え方
１０） 全身状態の把握
１１） 口腔内状況とその評価方法
１２） 専門的口腔ケア
１３） 症状に対応した専門的口腔ケアの手技
１４） 周術期口腔機能管理・認知症への対応・歯科医療の将来展望
１５） 総括

中央法規　介護職員初任者研修　１
医歯薬出版　新編　超高齢社会のための専門的口腔ケア

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門分野（必須）	教育内容	選択必修分野
教科目	手話講座		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（48時間）
開講時期	1年　前期・後期	担当	柴田　悦子
実務経験　あり	大分県聴覚障害協会手話講師。本校兼任教員。		

概要

コミュニケーション手段としての手話の理解
手話講習会入門過程修了認定取得講座

到達目標

１）聴覚障がい者とのコミュニケーション方法の習得
２）聞こえないことにより生じる様々な問題の理解

授業内容

【1年前期】
１・２）手話の基礎　第１課　①　・　第２課②
３・４）手話による表現（指文字練習）　第３・４課「自己紹介」
５・６）手話による表現（単語練習）　第５・６課「時間の表現」
７・８）手話による表現（単語練習）　第７・８課「数字の表現」
９・10）手話による表現（会話練習）　第９・10課「疑問詞」
11・12）手話による表現（会話練習）　第11・12課「季節の表現」
13・14）手話による表現（単語練習）　第13・14課「感情表現」
15・16）手話による表現（会話練習）　第15・16課「感情表現2」
17・18）手話による表現（単語練習）　第17・18課「教育」
19・20）手話による表現（単語練習）　第19・20課「スポーツ」
21・22）手話による表現（単語練習）　第21・22課「食べ物」
23・24）手話による表現（ろう者との会話練習）、手話による表現（総合練習）

【１年後期】
25・26）手話による表現（会話練習）　第23・24課「買い物」
27・28）手話による表現（会話練習）　第25・26課「趣味」
29・30）手話による表現（単語練習）　第27・28課「動物」
31・32）手話による表現（単語練習）　第29・30課「自然」
33・34）手話による表現（手話スピーチ）
35・36）手話による表現（手話コーラス）
37・38）手話による表現（単語練習）　第31・32課「地名」
39・40）手話による表現（会話練習）　第33・34課「医療現場」
41・42）手話による表現（単語練習）　第35・36課「都道府県」
43・44）手話による表現（会話練習）　第37・38課「職業」
45・46）手話による表現（短文・長文練習）　第39・40課「総合レッスン」
47・48）手話による表現（基本練習例文）、手話による表現（総合練習）

全日本ろうあ連盟出版局　手話学習　ボランティア活動の手引き
全日本ろうあ連盟出版局　ハジメテノ手話テキスト

評価方法

成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）

分野	専門分野（必須）	教育内容	選択必修分野
教科目	総合講座		
授業形式	講義	単位(時間)	2単位（30時間）
開講時期	３年後期	担当	専任教員　実務経験者
実務経験　あり	歯科衛生士として歯科医療に従事。現在、本校専任教員		

概要

履修科目の総括により知識、技術の定着を図り、知識や経験を整理することによって視野を広げる

到達目標

① 歯科医療の高度化と社会環境の変化に対応することができる
② 幅広い見識と豊かな人間性を有する
③ 高い倫理観を持つ
④ 資質向上に寄与することができる
⑤ 他職種連携ができる
⑥ ＥＢＭに基づいた科学的な判断ができる

授業内容

【３年後期】

１） 専門基礎科目1
２） 専門基礎科目2
３） 専門科目1
４） 専門科目2
５） 専門科目3
６） 専門基礎科目4
７） 専門基礎科目5
８） 専門科目4
９） 専門科目5
１０） 専門科目6
１１） 専門基礎科目6
１２） 専門基礎科目7
１３） 専門科目7
１４） 専門科目8
１５） 専門科目9
１６） 専門基礎科目8
１７） 専門基礎科目9
１８） 専門科目10
１９） 専門科目11

２０）　専門科目12
２１）　専門基礎科目10
２２）　専門基礎科目11
２３）　専門科目13
２４）　専門科目14
２５）　専門科目15
２６）　総合科目1
２７）　総合科目2
２８）　総合科目3
２９）　総合科目4
３０）　総合科目5

医歯薬出版　最新歯科衛生士教本　該当科目　歯科衛生士問題集

評価方法
成績評価の基準として、単位認定規程第3項5条に記載
定期試験：筆記試験を１００点満点として評価する（６０点以上　合格）